

令和6年度（2024年度）希望の郷拠点事業報告

1. 事業総括

- ・お一人おひとりを個人として尊重し、長年住み慣れた地域での生活の歴史、文化に配慮しました。
- ・利用者の個性とニーズに応える個別処遇に努めました。
- ・充実感と満足感を得られるような支援を目指しました。
- ・医療機関や邑南町及び関係機関との緊密な連携に努めました。
- ・利用者、家族との信頼関係を築くことに努めました。
- ・職員の介護力の強化、向上に努めました。
- ・ケアプランに沿った通所介護計画や個別機能訓練計画、運動器機能向上計画を立てて実施し、利用者様の自立に向けた生活機能の維持向上に努めました。

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

	指標名	指標値	実績
KGI(最重要目標指標)	目標利用者数 (定員 20 名)	4,496 名 (6,160 名×73%)	4,807 名 (78.0%)

(実績値は健幸サロン含む)

(2) 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	地域ボランティアの受入数	24 名	4 名

矢上高等学校等短時間ではありましたが交流が図られご利用者にとっても良い機会となりました。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	101.4%
	計画職員充足率	100%	106.7%
	人時生産性	1.72	1.72
	労働生産性	3,342	3,210

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

自立支援介護を実践し生活機能の維持向上を目指しました。基本ケアとなる、水分摂取、運動、排泄、食事への取り組みを重点的に行いました。提供する飲み物のメニューやタイミング、外出や行事、排泄介助のタイミング、調理実習等を職員間で話し合い、実践いたしました。

ご家族、介護支援専門員や他事業所との連絡を密にして、ケアプラン、ご利用者・ご家族の意向、心身の状況や環境、自立支援介護をベースに通所介護計画・個別機能訓練

計画・運動機能向上サービス計画を作成し、実施、評価を繰り返し、お一人お一人が少しでも長く住み慣れた環境で、その人らしく、安心して生活していただけるよう努めました。

(2) 人材育成への取組み

事業所内研修・法人内研修・外部研修に参加させていただき、各職員のスキルアップに努めました。資格のない職員についても、オンラインでの研修や、対面式の研修に参加をすることで介護技術の向上を目指しました。

毎月の職員研修では、お互いが向上できるよう職員を講師役として研修を行いました。また、職員会議も毎月開催して、ご利用者の支援方法の統一や業務改善への意見を出し合い、サービスの質の向上に努めました。

(3) 地域との関係強化への取組み

公民館祭りでは、利用者様のデイサービスでの作品を展示していただき、期間中は利用者様と共に地域の方の作品を鑑賞致しました。

矢上高校と連携し高校生と利用者様の交流を行いました。その他、外出行事や買い物等を実施いたしました。

(4) 生産性向上への取組み

新規ご利用者の獲得や、現利用者様の利用回数の増加のため、ご本人やご家族様、介護支援専門員へ働きかけ、また健幸サロンのご利用から介護保険を利用していただけるよう状態の確認や声掛けを行いました。

毎月の職員会議や職員間のコミュニケーションを図り、チームケアの質の向上及び人材定着に努め、限られた人員や設備での業務改善を行いました。現場に余力をもたせて、クリエイティブな活動や加算取得に結びつけていくことが今後の課題となります。

(5) 施設整備への取組み

樹木が育ち景観が悪くなっていたため、剪定作業等実施し敷地内の環境美化整備に努めました。

パソコンの機能低下、サポート終了によるセキュリティー対策のため1台更新いたしました。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	差異
6,160名	4,496名(73%)	4,458名(72.3%)	△0.7%
		4,807名(78.0%) *健康サロン含む	5.0%

(2) 利用者構成状況

介護度別	計画数	実績	差異
健幸サロン	5名	4名	-1名
事業対象者	1名	4名	+3名
要支援 1	4名	1名	-3名
要支援 2	6名	4名	-2名
要介護 1	19名	19名	±0名
要介護 2	10名	10名	±0名
要介護 3	4名	6名	+2名
要介護 4	0名	2名	+2名
要介護 5	1名	0名	-1名
計	50名	50名	±0名

(※事業対象者とは、基本チェックリスト(日常生活の様子や健康状態について把握するために25項目の質問で構成されているもの)を実施した結果、日常生活における何らかのリスクがあると判定された方を市町村が「事業対象者」と認定します。認定された方には、「事業対象者」と印字された介護保険被保険者証が発行されます。)

2. 実施サービス

(1) 介護保険関係サービス

〈基本ケア〉

実施項目	水分管理
成果・評価	水分摂取のタイミングや、ドリンクメニューの更新、摂取しにくい方への声掛け等の工夫をしながら目標値を目指しました。 水分摂取を避けられる利用者様もおられましたが、繰り返し水分摂取の重要性をお伝えしました。
KPI	目標摂取量の達成 (100%)
KPI 実績	105%

実施項目	運動管理
成果・評価	利用者様の状態に応じた個別機能訓練計画書を作成し、同意を得たうえで実践、評価、改善を繰り返しました。 運動機能向上に向けて、日常生活の中でも歩行する機会を設け、目標値を目指しました。 体調により実施できないことや、季節の行事ごとの為実施できないこともあり、目標値を下回りました。
KPI	目標運動量の達成 (100%)
KPI 実績	93%

実施項目	排泄管理
成果・評価	紙パンツやパット内での排泄を減らすため、トイレ誘導を行うことはもちろん、利用者様毎の排泄のタイミングを検討しながら誘導の回

	数を増やし、トイレでの排泄を目指しました。
KPI	-
KPI 実績	-

実施項目	体調維持・改善管理
成果・評価	ご利用時には看護師によりバイタルチェックを行いました。異常があれば、再度測定、様子観察、聞き取りを行い、ご家族や・ケアマネに報告し体調管理、状態維持・改善に努めました。 また、利用者様やご家族からの情報は職員間で共有し対応いたしました。これにより病態の早期発見・維持に繋がりました。
KPI	状態維持・改善率（90%）、入院者数（4%）
KPI 実績	状態維持・改善率（92%）入院者数（11%）

実施項目	入浴管理
成果・評価	思いが強く、入浴をされない方に対して、声掛けのタイミング、周囲の環境などを話し合い実践しました。 また、ご本人やご家族のご意向にて入浴をされない方もおられるため実績値が低下しております。
KPI	入浴率（100%）
KPI 実績	入浴率（84.9%）

実施項目	口腔衛生管理
成果・評価	口腔ケアの重要性について説明を行い、利用者様に理解していただけるよう努めました。ご家族にも協力をお願いし、歯磨きセットを持参していただく等昼食後には口腔ケアを実施しました。 利用契約時には、口腔ケアの重要性について説明を行い、ご家族にも協力をさせていただくことができました。
KPI	-
KPI 実績	-

実施項目	認知度管理
成果・評価	ケアプランによる介護計画において、利用者様の状態に応じた目標を設定し実践しました。また、利用者様の特質等を考慮し、可能な限り在宅生活を維持できるよう他職種で連携を取りながら個別ケアの実施を行いました。 自立支援介護の理念から、水分摂取、運動、排泄、栄養のケアに注力し、脳の活性化に繋がるようレクリエーションや脳トレ等を行いました。
KPI	-
KPI 実績	-

実施項目	栄養管理
成果・評価	個別の疾患に注意し食事を提供しました。利用者様毎の摂食状況の

	管理や毎月の体重測定を行い、変動が大きい利用者様には、家族様・ケアマネに報告し体調管理、状態維持・改善に努めました。
KPI	—
KPI 実績	—

(2) 介護保険外サービス

<健幸サロン事業>

実施項目	健幸サロン事業
成果・評価	<p>介護予防・日常生活支援総合支援の方は、利用回数が決まっているため、この健幸サロン事業を追加利用することで、在宅生活が維持できるようサービス提供を行いました。この事業に於いても自立支援介護を念頭に置き、水分摂取量・運動量の増加・栄養状態の維持を目指しました。心身の機能の改善だけでなく、社会参加や生きがいにもつながるよう努めました。</p> <p>また、介護予防を目的として、介護認定を受けておられない方にもご利用いただき、運動機能向上を目指した運動や、認知力向上を目指した脳トレ等を行いました。</p>
KPI	利用者数5名を維持
KPI 実績	6名（要支援者等2名含む）

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1(0.5)		1(0.5)			
生活相談員	(1.0)		(1.0)			
看護師	1(0.5)	1(0.4)	1(0.5)	1(0.4)		
機能訓練指導員	(0.5)	1(0.4)	(0.5)	1(0.45)		(+0.05)
介護員	1(0.5)	6(3.7)	1(0.5)	5(4.2)		-1(+0.5)
厨房職員		4(1.4)		4(1.6)		(+0.2)
運転手		1(0.1)				-1(-0.1)
計	3(3.0)	13(6.0)	3(3.0)	11(6.65)	±0	-2(+0.65)

非正規職員数は減少していますが、勤務時間の調整にてカバーいたしました。

人財育成事業

(1) 事業所内実施研修

感染症に関する研修
全職員対象、参加者数5名
認知症研修
全職員対象、参加者数7名
身体拘束・虐待防止研修

全職員対象、参加者数 5 名
避難訓練・消火訓練実施
全職員対象、参加者数 8 名 (1 回目)、8 名 (2 回目)
送迎についての研修
全職員対象、参加者数 6 名
リスクマネジメント研修
全職員対象、参加者数 5 名
入浴介助についての研修
全職員対象、参加者数 6 名
救急救命研修
全職員対象、参加者数 7 名
不審者対応に関する研修
全職員対象、参加者数 4 名
接遇・マナー研修
全職員対象、参加者数 6 名
サービス評価についての研修
全職員対象、参加者数 7 名

(2) 事業所外実施研修 (外部派遣研修)

認知症介護基礎研修
無資格の職員対象、参加者数 2 名
介護職員初任者研修
未経験の職員対象、参加者数 1 名
バーセルインデックス評価研修
LIFE (科学的介護情報システム) 使用職員対象、参加者数 2 名

(3) 事業所間研修

ハラスメント研修
全職員対象、参加者数 4 名

地域との関係強化への取組み

実施事項	ボランティアの受入れと地域交流
成果・評価	サマーボランティアとして高校生 1 名の受け入れや、公民館祭りにて、地域の方の作品を鑑賞しました。 学生や地域の方との交流で利用者様にとって良い刺激となり、認知機能の維持の為にも良い機会となりました。
KPI	—
KPI 実績	—

生産性向上への取組み

(1) 稼働率向上への取組み

新規利用者獲得の他、利用者様の状態を確認しながら、ケアマネやご家族との連携を密にして、要支援、要介護高齢者の利用回数増加に結びました。

また、自立支援介護の実践により、利用者様の体調を維持向上させることで、体調不良等による入院を回避し利用回数の維持に努めました。

(2) 新規加算取得への取組み

新規取得計画	実績
個別機能訓練加算Ⅱ ADL維持加算ⅠⅡ 口腔栄養スクリーニング加算Ⅰ 口腔機能向上加算Ⅱ	新規加算取得なし
現在も定期的に複数の計画書を作成しておりますが、新規加算取得までの計画書作成に至りませんでした。	

(3) 業務改善の取組み

毎月の職員会議や職員間のコミュニケーションを図り、気づきを大切に、チームケアの質の向上及び人材定着に努め、限られた人員や設備での業務改善を行いました。常に職場環境の整備や業務全体の流れに気を配り、現場に余力をもたせることが課題となります。

施設整備事業

実施事項	敷地内の美化整備
実施内容	樹木の剪定作業を実施致しました。
実施事項	器具備品
実施内容	古いOSのためパソコン1台を更新致しました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	0	0
大規模修繕	0	0
その他	0	0
計	0	0
取崩	—	136

感染症・災害への対応への取組み

事業所内で研修を行い、感染症・衛生管理の知識と心構え、予防の重要性を確認致しました。また、事業所内の消毒や換気、バイタル測定を行い、感染症の対応を行いました。

災害への対応としては、随時緊急連絡網を確認・更新して不測時に備えました。

4. 苦情解決(要望含む)の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年6月7日
申立人	利用者様の次男妻
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他 朝の送迎時、「2日前に希望の郷の送迎車両が、我が家(利用者宅)の屋根工事の為に停車していたダンプカーのサイドミラーに接触したにもかかわらず、運転していた職員は何の対応もしなかった。一言あればよかったのにとダンプカーの持ち主が言われていました。」とお伝えくださいました。
処理結果	利用者様の次男妻にご心配、ご迷惑をおかけしたことをお詫びする。接触した自動車の所有の方の自宅に伺い、職員の指導を徹底することをお伝えしお詫び致しました。

苦情事例【2】

発生日	令和6年8月8日
申立人	地域の方
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input checked="" type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 地域の方より法人事務局へ、「レジに並んでいたら当法人の職員に大きな声を浴びせられた。」と電話いただきました。
処理結果	電話にてご本人から改めて内容を聞き、不快な思いをされたことに対してお詫びを致しました。

以 上

令和6年度（2024年度） 桃源の家拠点事業報告

<特別養護老人ホーム桃源の家>

1. 事業総括

- ・入居者の人格を尊重したサービスの提供に努めました。
- ・入院日数及び退所後の空床日数を減らし、安定的な施設運営を目指しました。
- ・職員一丸となったサービス提供に努めるとともに、労働環境の改善を図りました。

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI (最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	月平均稼働日数	2,676日 (年32,120日÷12か月)	2,627日 (86.3%)

定員100名に対し稼働率88%を目指し取り組みましたが、転倒骨折や定期的な入院等もあり目標値に届きませんでした。

(2) 地域社会との関係性強化

KGI (最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	オレンジカフェ・ひだまりサロン・ボランティア等の年間参加者数	200名	202名

オレンジカフェは毎月1回の開催を予定通り行いました。

合計202名の方に参加いただき指標値を上回りました。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	101.1%
	計画職員充足率	100%	92.5%
	人時生産性	2.22	2.40
	労働生産性	4,300	4,558

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

今年度も自立支援介護を最重点に位置づけ取り組みました。5月から新たにJカフェ(自立支援カフェ)を毎月受講し他法人と事例の検討、職員がアドバイザーとなり3か月に1回各事業所が事例を持ち寄り検討会議の実施等、自立支援に係る理論、技術習得の継続、浸透に努めました。また、個別の支援計画に基づき多職種連携のもとKPI達成を目指しました。

運動ケアの実施率、排泄管理は目標値にやや届きませんでした。水分、褥瘡、入浴、認知症、栄養、口腔衛生、看取り等の基本ケアは、概ね目標に近い実績となりました。

(2) 人財育成への取り組み

今年度は内部研修の参加率を高める為、eラーニングを取り入れました。全職員の視聴につながり知識を習得することが出来ました。

外部研修は予定通り受講し、計画外研修は自立支援介護に関わる看取り介護、口腔ケア、ユニットリーダー研修等、適時必要な研修を取り入れ、学んだ技術を現場で活かすことができました。また、中国大会に出場し取り組んだ成果を発表することができました。研修で学んだことの実践や、人事評価制度に基づく日々の指導により、職員個々の能力が高められたものと考えております。

(3) 地域との関係強化への取り組み

公益事業の推進として、「認知症カフェ」「ひだまりサロン」事業の拡大に努め、年間 200 名の参加者を目標として取り組み、2 つの事業を合わせ 202 名の参加実績でした。5 年目となった認知症カフェは、公立邑智病院認知症看護認定看護師に協力していただきながら、参加実績のある方の再参加や同じサークルの方を誘っていただく等徐々に参加者の輪を広げることができました。

ボランティア交流については、寺族婦人会様による仏具磨きや中野虫送りの鑑賞等を行いました。その他、介護福祉士を目指す学生の実習受け入れ、中高学生の職場体験学習の場を提供いたしました。

(4) 生産性向上への取り組み

100 床を目指しておりますが人員配置が整わず 90 床稼働で推移致しました。入退所が多くその調整は難しいところですが、空床日数を少なくするための入退所調整に注力致しました。

新規加算取得については、公立邑智病院と連携し高齢者施設等感染対策向上加算を取得しました。他職種協働の体制を敷き、ICT 導入による効率化を図りました。

(5) 業務見直しの取り組み

職種間の連携・協力をより強固にするため、多職種の短時間業務支援などを行い、必要最低限での人員体制で生産性の向上に努めました。

インカムの導入によりユニット間、部署間への連絡等、手を止めることなくスムーズに行え、業務の無駄なく効率よくできるよう整備しました。見守りベッドセンサー（マルチセンサー）は 2 ユニット(30 床)全床設置し、訪室せずとも身体状態の把握や転倒等の事故防止に繋がり、特に夜間帯の職員の業務負担が軽減できるよう検討いたしました。使用方法等で不具合が生じることもありましたが、見守りセンサーの開発者と情報交換を行うことでノウハウを積み重ね、次年度全床設置することで、更に有効に活用し成果を上げていきたいと考えております。

(6) 施設整備への取り組み

福祉用具の修理、給湯設備、空調設備等の修繕を行い、安心安全な施設環境整備に努めました。

令和 6 年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率
100 名	32,120 日 (88%)	31,525 日	86.3%

(2) 利用者構成状況

介護度別	計画数	実績	差異
要介護度 3	30名	35名	+5名
要介護度 4	40名	32名	-8名
要介護度 5	20名	23名	+3名
計	90名	90名	

2. 実施サービス

介護保険関係サービス

介護保険法の目的であるご利用者の方の自立を図るためのサービス支援を行うため、個々のサービス計画（ケアプラン）においてご利用者の方の生活目標を明確にし、それに基づく個別支援計画（具体的サービス実施計画）において、多職種連携を基本として、各専門職が具体的な支援目標及び支援内容等を決め、ケアプランにおける生活目標の実現を図ることに努めました。

各専門職の個別支援計画では PDCA サイクルを展開することにより、適正なモニタリングを通じて支援目標の達成度を評価し、この評価結果により個別支援計画の支援内容等がサービス計画（ケアプラン）における生活目標の達成を実現できるものになっているのかをカンファレンス等を通じて評価検証しました。

また、介護部門委員会、医療部門委員会、安全管理委員会及び給食委員会を設置し、現状の各専門職の支援の在り方についての問題点の解明と課題解決のための具体策を協議し、支援サービスの向上に取り組みました。

サービス計画（ケアプラン）の方針に基づく個別支援計画では基本的に多職種連携のもと以下の取組みを実施しました。

〈基本ケア〉

実施項目	水分管理
成果・評価	自立支援介護実践の中でも最重要項目として、入居者の意識、覚醒レベルを高めるため、個人の水分目標摂取量(体重×25)を設定しました。嗜好、嚥下状態に応じた飲料、ゼリーなどの提供、入居者に合った摂取方法の工夫、体調の観察(むくみ等の確認)、水分量のチェック体制等を整えました。 自立支援介護部門委員会やユニット会議などで、問題点や課題について検討し解決に取り組みました。
KPI	目標摂取量の達成率 100%
KPI 実績	目標水分摂取量の達成率 99.8%

実施項目	栄養管理
成果・評価	BMI や血清アルブミン値、食事摂取量、体重の減少などから栄養状態のリスクを判定し、栄養ケア計画に基づき PDCA サイクルを展開しました。旬の食材や季節の行事にちなんだ献立の立案・提供、必要に応じて食品補助食品を提供しました。また、多職種が連携し情報共有を行い、嚥下、かみ砕きなどの状態を確認し常食化の取組みを推進しました。 医師の指示に基づいて治療食の提供や状態に応じた入居者個々の食事形態の摂取状況について、医師、介護職、看護師と管理栄養士間で情報を共有し、定期的な見直しを行う等状態の悪化を防止する

	よう努めました。
KPI	低栄養状態リスク度の改善率前年比 10%向上、常食率前年比 10%増
KPI 実績	—

実施項目	排泄管理
成果・評価	<p>自立排泄によるオムツ着用率の減少を図るため、利用者の状態に応じた排泄目標、支援方法等を設定し、目標達成に取組みました。</p> <p>入退所者の介護度状況や退院後の健康状態等の関係も影響し、個別援助計画に基づいて日中トイレでの排泄を行うよう継続して実施してきましたが、目標達成とはなりませんでした。</p> <p>月 1 回の自立支援介護部門委員会にて問題点や課題について検討し解決に取り組みました。</p>
KPI	終日オムツ着用率 20%
KPI 実績	終日オムツ着用率 23.8%

実施項目	運動管理
成果・評価	<p>入居者の身体面、健康面を高めるため、状態に応じた目標運動量、支援方法を設定し、可動域の向上を目的に理学療法士が作成した個別機能訓練計画書の内容に基づき、看護・介護職で個別、集団訓練を実施しました。PDCA サイクルを確実に展開し、状態の維持向上に努めました。体調不良のため実施できなかったことや、ご本人の意欲を引き出すことができず実施できない場合もありました。</p>
KPI	目標運動量の達成率 100%
KPI 実績	運動量の実施率 86.8%

実施項目	口腔衛生管理
成果・評価	<p>年 4 回の歯科衛生士訪問による口腔指導や口腔ケア研修は予定通り実施し、その方に合った口腔ケアや食事前の口腔体操などを継続してきました。歯科受診の必要な方は順次受診と、口腔メンテナンスでの受診等口腔内トラブルの解消に取り組みました。また、口腔内の残差物が残りにくい食事形態や、口腔、咽頭に残留しにくいトロミの硬さの統一を図りました。一方で自立支援介護の推進を図るため、常食化に向けた取り組みを行いました。</p> <p>しかしながら口腔機能や口腔ケアが大きく関わる誤嚥性肺炎、肺炎での入院の方が 7 件発生し課題となりました。</p> <p>給食委員会（1 回/3 か月）、自立支援介護部門委員会（口腔）において問題点や課題について検討し解決に取り組みました。</p>
KPI	義歯調整、作成のための歯科受診率 100%、誤嚥性肺炎による入院ゼロ
KPI 実績	歯科受診実績延べ人数 71 名、誤嚥性肺炎による入院 7 件、常食化率 主食 47.0%・副食 53.7%

実施項目	入浴管理
成果・評価	<p>個浴・特殊浴、シャワー浴、清拭などの適切な介助により、安全で快適な環境のもと、清潔の保持、血行の促進、リラックス効果を高められるよう週 2 回以上の実施を目指しました。また全身の状態の確認により皮膚の観察や褥瘡の早期発見等の情報共有を図りました。</p>

	<p>た。</p> <p>体調不良の場合や、入浴拒否等があり 100%の実施はできませんでしたが、清潔が保持できるように陰部洗浄を行いました。</p> <p>自立支援介護委員会、ユニット会議などで問題点や課題について検討し解決に取り組みました。</p>
KPI	入浴率 100%
KPI 実績	入浴実施率 97.5%

実施項目	褥瘡管理
成果・評価	<p>看護課が褥瘡ケア計画を作成し、PDCA サイクルを展開することで、発生の防止と早期治癒に努めました。また、栄養課では血清アルブミン値や体重の変化を把握し、褥瘡発生リスクの高い利用者を見極め、必要に応じて状態に合った栄養補助食品を提供しました。介護課では体位変換や、排泄介助、入浴時など皮膚の状態に注意しながら介助をするなど多職種間での連携を図り、新たな発生がないよう管理しました。入院され褥瘡になったケースや低栄養等の関係で褥瘡になったケースがあり、理学療法士と連携を取り体位交換表を作成し職員が統一したケアを行うようにしました。早期発見や体位交換等のケアをきちんと行うことですぐに完治するケースが多くみられました。</p> <p>医療部門委員会などで、問題点や課題について検討し解決に取り組みました。</p>
KPI	褥瘡発生率ゼロ
KPI 実績	褥瘡発生件数 16 件

実施項目	認知度管理
成果・評価	<p>水分・運動・排泄、栄養の各ケアを実施した上で QOL を高めるために、利用者の声を形に、レクレーション・調理実習・季節行事・外出支援・交流活動などを各ユニット、或いは合同で計画し個別に必要な支援を行ってきました。毎週いきいきくらす会やミニデイを開催しユニットから出かけ集団体操や作業を行いました。対応困難な事例が発生した場合は、随時ケース会議を開催し多職種で話し合い、ケアの統一を行いました。</p> <p>栄養課では季節の行事食などの提供を継続しました。桃源喫茶は2か月に1回、お好きな飲み物やケーキなどを選んでいただき、提供する行事を1年通して行ってきました。今年も習字クラブを行い、生活の質の向上に努めました。</p> <p>認知度を図るため、毎月日常生活自立度のチェック、バーセルインデックス（機能的評価）などで変化を追ってきました。退院後は状態低下もありましたが、ほとんどの方は現状維持ができました。</p> <p>ユニット毎に認知症介護実践リーダー研修修了者を配置できるように1名受講しました。</p> <p>ユニットの枠を超えた行事を行事委員会が年間計画に基づき実施しました。</p>
KPI	日常生活自立度判定レベルの維持、行動・心理症状(BPSD)の消失
KPI 実績	—

実施項目	健康管理
成果・評価	<p>日々の健康チェックを1日に2回以上実施し、体調の変化に応じ、医師との連携を密に適切な対応に努めました。</p> <p>食事については、状態に応じた食事の提供に努めました。</p> <p>嘱託医の定期診察等計画通り実施いただき健康管理に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科診察 週2回 ・精神科診察 月1回 ・健康診断及び結核検診 年1回 ・インフルエンザ予防接種 年1回 ・新型コロナワクチン接種 年2回 <p>入院者数は昨年(66名)を下回りました。入院者は定期的なステント交換のための入院等も含まれます。</p>
KPI	入院者ゼロ
KPI 実績	入院件数 50名

実施項目	看取りケア
成果・評価	<p>医師・家族との協議、同意の下、看取り計画書の実施内容を確認いただき、医師の指示に基づき対応しました。入居者・家族の不安な気持ちを汲み取り、納得できる最期が迎えられるよう多職種間での連携を密にし、随時詳しく状態についてお伝えしました。最期を家族と過ごしていただけるように環境の配慮を行いました。</p> <p>食べることが苦痛にならない様、少量でもおいしく、嚥下に無理のない食事・水分を摂取していただけるよう努めました。生前、入居者様が希望されていたことをエンゼルケアの際に実施しました。</p> <p>看取りケアについては、入居者の状態が悪くなってきてから考えるのではなく、早い段階で最期の迎え方について、入居者、家族を交えた話し合いの場を幾度と作っていく必要があります。</p> <p>医療部門委員会(3か月に1回)、看取りについての問題点や課題について研修を行いました。</p>
KPI	看取りケア対象者 20%
KPI 実績	看取りケア対象者 24%

実施項目	入退所管理
成果・評価	<p>ご利用希望者の個別事情に配慮しながら、速やかな入所手続きを実施することにより、ご利用者の入所ニーズに適切に対応していくよう努めました。関係機関や居宅介護支援介護事業所からの情報提供なども多く、入所申し込みをされる方が増え、入所予定者(待機者)を一定数確保することができました。予定通り年間を通して迅速な対応に努め、空床日数は目標に近い数値にもっていくことができました。</p> <p>(入所)</p> <p>家族の介護負担軽減に配慮して、環境の変化によるご利用者の心理的ストレスをできるだけ軽減できるよう入所の意向確認を早めに行い、関係者との連絡調整によりスムーズな入所に繋げ稼働率の安定に努めました。</p> <p>(退所)</p>

	主に療養型介護施設への転院や死亡による退所の方でしたが、要介護2となり養護老人ホームへ入居された事例が1件ありました。 入所判定委員会を年6回（基本1回/2か月）、入所申し込み者の状態、評価点、事情を確認し、空床が発生すればスムーズに対応できるよう心掛けました。
KPI	退所後空床日数7日以内
KPI実績	退所後空床月平均日数5.5日

実施項目	安全対策管理
成果・評価	ご利用者の方の安全安心な生活継続のため、施設内研修による事故防止対策と、ヒヤリハット事例に基づくリスクの排除を徹底し、事故を未然に防ぐことに努めました。事故件数217件（怪我がなくても床に座っておられた等も事故に該当）。ヒヤリハットは職員間で情報共有しその事例に対して対応策を迅速に決め取り組みましたが、事故件数は昨年に比べ17件増え、保険者への報告義務のある事故は前年度より4件減少しました。（転倒による骨折、裂傷等、入院、治療を要したものや虐待事例の報告） 身体拘束については、実施の必要性がある場合は取り決めに基づいて実施し今年度3件の事例がありました。期間を決め会議を行い必要ではない身体拘束は解除していくことに努めました。 虐待については、虐待防止チェック（虐待の芽チェックリスト）を2か月に1回実施し虐待に繋がりうる行為の排除に努めました。令和7年2月19日入居者への虐待事例が発生しました。 安全管理部門委員会において、安全対策、虐待防止、身体拘束についての問題点や課題について検討し、解決に取り組みました。
KPI	報告義務に該当する事故発生件数ゼロ、ヒヤリハット件数月20件（各ユニット）
KPI実績	報告義務に該当する事故発生件数8件（虐待に関する事例1件） ヒヤリハット月平均件数22.4件（各ユニット）

・介護保険外サービス

実施項目	認知症カフェ（オレンジカフェ石見）
成果・評価	町の委託を受け認知症の方及びその家族をはじめ地域の方々が気軽に集うことができる場を提供し、認知症に関する情報交換や交流により孤立・閉じこもりの防止、負担感の軽減を図りました。また認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに努めました。月1回の予定で石見地域の公民館を会場に開催しました。 (内容) ・認知症の方及びその家族に対する支援。 ・認知症に関する勉強会・予防のための脳トレ、体操、健康チェック、相談。 ・認知症の啓発や支え合いの推進。
KPI	年間参加者数120名
KPI実績	年間参加者数166名

実施項目	ひだまりサロン
成果・評価	地域の高齢者の方々に集いの場の提供や、活動内容をサポートする

	ことにより、絆と連帯感を深め心の活力と生活力の向上を図ってもらうことを目的として高齢者の方々がいきいきと暮らすことができる地域づくりに貢献できるよう努めました。依頼がありませんでした。
KPI	年3回開催
KPI 実績	開催実績0件

実施項目	苦情解決・相談対応
成果・評価	意見箱の設置や家族へのサービスに関するアンケートを7月と2月の年2回実施しました。介護計画書の見直しの時など、入居者、家族の意向を伺いながら、日頃より話しやすい雰囲気を作り、小さなことでも気軽に相談していただけるよう信頼関係の構築に努めました。上がってきた要望、苦情に対しては迅速かつ的確に対応し、サービスの質の向上に繋がりました。要望を含む31件の苦情、意見を頂きましたが、思いを引き出し、聴く機会を増やすなどの対応が必要であると考えております。円滑な解決を図るために第三者委員をお願いしておりますが、関与が必要な事案はありませんでした。町からの介護相談員派遣受け入れを行いました。
KPI	—
KPI 実績	相談・苦情 31件

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
施設長	1(0.9)		1(0.9)			
課長	3(2.9)		3(2.9)			
看護師	3(3.0)	4(3.2)	3(3.0)	4(2.5)		(-0.7)
生活相談員						
介護支援専門員	1(1.0)		1(1.0)			
介護員	29(29.0)	29(21.49)	26(26.0)	27(19.65)	-3(-3.0)	-2(-1.84)
理学療法士	1(1.0)		1(1.0)			
管理栄養士	1(0.9)		1(0.9)			
調理員	2(2.0)	6(4.2)	2(2.0)	8(4.1)		+2(-0.1)
事務員		1(1.0)		1(1.0)		
環境・夜警員		7(3.4)		6(3.3)		-1(-0.1)
計	41(40.7)	47(33.29)	38(37.7)	46(30.55)	-3(-3.0)	-1(-2.74)

*計画人数より少ない人員体制でしたが、全職員協働で業務にあたりました。

人財育成事業

(1) 事業所内実施研修

接遇・マナー研修(eラーニング)
全職員対象、参加者数77名
事故防止研修(eラーニング)
全職員対象、参加者数65名
認知症研修(eラーニング)
全職員対象、参加者数69名

感染症研修(e ラーニング)
全職員対象、参加者数 76 名
救急法講習会(訓練)
全職員対象、参加者数 30 名
身体拘束・虐待防止研修(e ラーニング)
全職員対象、参加者数 55 名
人権擁護研修(e ラーニング)
全職員対象、参加者数 64 名
排泄研修(実践)
全職員対象、参加者数 8 名
看取り研修(e ラーニング)
全職員対象、参加者数 60 名
桃源の家事例発表会
全職員対象、参加者 5 ユニット・医務・厨房

(2) 事業所外実施研修 (外部派遣研修)

新任職員マナー研修
新人職員対象、参加者 3 名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「チームリーダーコース」
係長職員対象、参加者数 1 名
看護職員・機能訓練士 意見交換会
看護師・理学療法士対象、参加者数 2 名
大田圏域感染症対策研修会
医療部門感染対策委員対象、参加者数 3 名
大田圏域の入退院連携
生活相談員・介護支援専門員対象、参加者数 2 名
介護施設における安全対策担当養成研修
安全管理委員対象、参加者数 3 名
島根県認知症介護実地研修「実践リーダー」
介護職員対象、参加者数 1 名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「初任者コース」
介護職員対象、参加者数 1 名
VR 高齢者住まい看取り研修会
全職員対象、参加者数 6 名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「中堅職員コース」
中堅職員対象、参加者数 1 名
自立支援介護に係る WEB 学習
全職員対象、参加者数 7 名
安全運転管理者等講習
安全運転管理者対象、参加者数 1 名
労務管理研修
管理職対象、参加者数 1 名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「管理者コース」
管理職員対象、参加者数 2 名
チームリーダースキルアップ研修 I
係長職員対象、参加者数 1 名
第 55 回中国地区老人福祉施設研修会
事例発表ユニット職員・管理職対象、参加者数 4 名

ティーチングスキル研修
管理職員対象、参加者数 1 名
科学的介護情報システム説明会研修会
生活相談員・介護支援専門員・介護課長対象、参加者数 3 名
ユニットリーダー研修
ユニットリーダー職員対象、参加者数 1 名
メンタルヘルス研修「一般コース」
全職員対象、参加者数 1 名
福祉サービス苦情解決研修会
苦情受付職員対象、参加者数 1 名
メンタルヘルス研修「管理職コース」
管理職員対象、参加者数 1 名
口腔関連強化加算セミナー
口腔ケア委員職員対象、参加者数 2 名
しまねの介護ご縁フェア
全職員対象、参加者数 1 名
島根老人福祉施設協議会研修大会
全職員対象、参加者数 3 名
しまねジャンボ企業博
全職員対象、参加者数 2 名
公立邑智病院研修会(環境整備)
看護職員対象、参加者数 1 名
在宅褥瘡 e ラーニング
看護職員対象、参加者数 1 名
医療・福祉機器のイノベーション、QOL の向上を目指すポジショニング研修
医務職員対象、参加者数 4 名
認知症介護基礎研修
無資格職員対象、参加者数 7 名
人権・権利擁護研修
全職員対象、参加者数 2 名
介護支援専門員再研修
介護支援専門員更新職員対象、参加者数 1 名
邑智郡医師学術講演会
医務職員・管理職員対象、参加者数 3 名
施設見学・科学的介護フォーラム
管理職員対象、参加者数 1 名
地域医療従事者研修会(看取り)
医務職員対象、参加者数 1 名
ユニットケア施設管理者研修
管理職員対象、参加者数 1 名
多職種連携会議(公立邑智病院 2 回)
生活相談員・介護支援専門員・管理職員対象、参加者数 3 名
太田地区研修会(椅子のできるヨガ)
介護職員対象、参加者数 1 名
介護ロボット地域フォーラム島根
管理職員対象、参加者数 1 名
冬の感染症対策について

医務職員対象、参加者数 1 名
感染症予防策について
感染症対策委員対象、参加者数 2 名
邑智郡口腔ケアサポーター研修
介護職員対象、参加者数 1 名
ウェルスカスタマークラブオンラインセミナー(人材育成)
管理職員対象、参加者数 1 名
島根県医療機関等結核講習会
医務職員対象、参加者数 2 名
公立邑智病院研修会(感染症)
医務職員対象、参加者数 1 名
しまね企業ガイダンス
介護主任職員対象、参加者数 1 名

地域との関係強化への取組み

実施事項	公益事業の推進
成果・評価	地域貢献を目的とした「認知症カフェ」「ひだまりサロン」事業をより拡大させるため、活動内容の周知に努め、参加者の増員を図りました。「ひだまりサロン」の利用はありませんでした。
KPI	年間参加者 150 名
KPI 実績	年間参加者実績 166 名
実施事項	ボランティア交流
成果・評価	餅つきを予定しておりましたが、感染症対策により中止となり、余暇活動関係でのボランティアの受け入れはありませんでした。環境整備や仏具磨き等を行っていただきました。
KPI	ボランティア受け入れ 50 名
KPI 実績	ボランティア実績 36 名
実施事項	発信事業の強化
成果・評価	桃源の家の取り組みを地域に発信をするように進めておりましたが、1回の開催となりました。
KPI	年 5 回
KPI 実績	実績年 1 回
実施事項	小中学生、高校生、大学生などの職場体験、実習などの受け入れ
成果・評価	介護福祉士を目指す学生の受け入れはありませんでした。高校生の職場見学・職場体験等の受け入れを行いました。石見中学生 2 学年生と授業の一環で交流会を予定しておりましたが、感染症流行のため中止となりました。
KPI	—
KPI 実績	受け入れ実績 3 名

生産性向上への取組み

(1) 事業規模拡大への取組み

100 床の体制を目指しておりましたが、人員配置ができず 90 床維持に留まりました。引き続き求人活動を行うと共に、ICT の特性、強みを更に活かしていくことが課題となります。

(2) 稼働率向上への取組み

現状の職員体制をカバーしていくため、多職種の短時間業務支援など連携・協力体制を敷きました。

空床日数を抑えるため、関係機関、ご家族等との入退所の調整は迅速な対応に努め成果を上げました。退所が決まる前に入所の調整を行い、退所 7 日以内に入所していただくように取り組みを行いました。その結果、空床月平均年間 5.5 日となりました。また、空床利用でショートを受け入れを行いました。

(3) 新規加算取得への取組み

新規取得計画	実績
経口維持加算 ADL 維持等加算 I 自立支援促進加算 排泄支援加算 I 認知症チームケア推進加算 協力医療機関連携加算 特別通院送迎加算 高齢者施設等感染対策向上加算	(新規取得加算) ADL 維持加算 I 協力医療機関連携加算 高齢者施設等感染対策向上加算 II 特別通院送迎加算
(評価) 体制を整え加算取得に努めました。ADL 維持換算は情報を提出し、ADL の維持ができていたことが認められました。	

(4) 業務改善の取組み

ICT の有効活用に努めました。見守りセンサー 30 台の追加導入を図り、睡眠の質や看取り期の心拍等、体調確認を行いケアにつなげていきました。今後、夜間巡回の回数の検討等の課題として残りました。

また、職員の一人ひとりの作業環境意識を高め、業務のムリ・ムダ・ムラを顕在化させストレスの軽減等に努めました。

施設整備事業

実施事項	(介護ロボット)浴室手動式入浴リフト導入
実施内容	個浴槽による安全安心の入浴の実施、職員の業務負担の軽減・効率化を図りました。
実施事項	(介護ロボット)見守りセンサーの設置(3 カ年計画 2 年目)
実施内容	見守りセンサー(30 台)の設置により、夜間帯の状態を見守ることができました。
実施事項	洗面台給湯器更新 15 台
実施内容	経年劣化のため、洗面台を更新しました。
実施事項	電話交換機工事の実施
実施内容	ナースコール等の連動性等、検討時間を要するため次年度へ見送りしました。
実施事項	室外機内部機器の更新(3 カ年計画 1 年目)
実施内容	耐用年数を超え不具合があるため、オーバーホールを行いました。
実施事項	ヘッドレスト機能を備えたベッドの導入(5 台)
実施内容	看取り期等、ベッド上で食事を摂られる際の誤嚥による事故、病気防止のために導入しました。

実施事項	スチームコンベクションオーブンの更新
実施内容	耐用年数を超え不具合あり更新を行いました。
実施事項	食器洗浄機修理
実施内容	経年劣化のため部品交換を行いました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	33,850	22,500
大規模修繕	6,770	4,500
その他	4,510	3,000
計	45,130	30,000
取崩	37,914	21,971

感染症・災害への対応への取組み

感染症・災害への対応力を強化するため、BCPの見直し、非常災害対策計画の作成を行うとともに、備蓄品の状況確認、不足分の購入、緊急連絡網（電話、携帯メール）の整備なども行いました。

施設内で感染者が確認された場合の対応については、嘱託医に相談をしながらマニュアルの更新を行って行きました。火災発生時の対応については消防署、保守業者の立会い下(1回)、昼間想定での避難訓練(2回)、夜間想定での避難訓練(1回)を実施しました。BCPの内容周知や実効性のある訓練内容の見直し、さらには地域の方との合同訓練等今後の課題となります。

特記事項

- ・令和6年11月14日 島根県令和6年度運営指導(実地指導)
- ・令和6年12月6日 福祉サービス第三者評価受審
- ・令和6年12月11日 外国人技能実習生受入にかかる監査

4. 苦情解決(要望含む)の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年4月8日(月)
申立人	生活支援専門員
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 利用者家族長男様が、前回の退所時にズボンのゴムが緩いのでゴムの入ったズボンを持参してほしいとショート職員に言われたが、自分で上げてもらうため、あえてゴムは緩くしているとのこと。度々しりもちをつくという報告があるのは、ズボンが上げきれていないのではないだろうか。排泄時に確認しズボンを上げてほしいと話をされていたと連絡を受ける。また、ケアマネから、Pトイレの設置などの対策は取ってもらっているのか。
処理結果	ズボンの件については、長男様の在宅での支援方法を職員に伝え周知し支援する。ベッド横にPトイレを設置しているが居室のトイレ

	に行かれることがあること、手すりとセンサーを設置しているが間に合わないことがあることを説明する。PT と相談し居室のトイレ周りの手すりを増やすなどの対応を行った。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【2】

発生日	令和6年4月11日(木)
申立人	デイサービス職員
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 デイサービス送迎時に利用者様夫より、ショート職員にボタン付の前開きの服をやめてほしいと言われた。ショート送迎職員からもボタンを取ってマジックテープに変えてもらえばいいと言われたが、家には自分(利用者様夫)しかおらず困っていると相談を受けた。 ※ショート利用時に、ボタンを引きちぎられ異食の可能性があったので依頼したとのこと。家やデイサービスではそのような行為はないとのこと。
処理結果	ユニット職員でショート利用時のみボタンを引きちぎる行為をされるのかを検証し、対応することの説明を行い、通常の衣類のまま対応としました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【3】

発生日	令和6年4月23日(火)
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input checked="" type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 担当者会議で月2回、本人様が在室の際にシーツ交換を行うように決まったが今月に入って1回も行っていない。又、食事を持ってきた際に便が出たのかを聞かれる。食事を食べる気がなくなる。
処理結果	担当者会議等で決められたことを職員が周知できるように、申し送りノートの確認をすること、決められたことが実施できなかった場合は、本人様に事情を説明すること、排便確認は大事であることを説明し、確認を配膳時間以外に行うよう徹底した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【4】

発生日	令和6年5月8日(水)
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 5月3日の食事に髪の毛が入っていた。具を食べた時に一緒に口の中に入って不愉快な思いをした。
処理結果	厨房職員の調理前の身だしなみを再確認し、配膳準備の時に異物が混入していないかの確認を徹底しました。ユニットでの配膳の際には異物が混入しないように蓋は直前に取り提供しました。

第三者委員への関与	解決結果を報告済
-----------	----------

苦情事例【5】

発生日	令和6年5月15日(水)
申立人	入居者長男の妻様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 毎回食事を食べていると職員より言われるが、全量食べていることに納得していない。食事を食べた上に間食を食べるのは食べすぎではないかと言われる。※在宅ではほとんど食べていなかったのに施設では食事の間食も食べているのはおかしいと疑問に思ったとのこと。 会いに行くといつも同じ冬服を着ている。着やすいのだと思うが、着ない服は持ち帰りたいと去年から言っているのに用意してもらえない。衣類は5組ほど置いて、買い替えが必要なら持参するので破棄せずに返してほしい。衣類もサイズの手直しが必要なので確認したい。
処理結果	生活相談員と管理栄養士が自宅訪問をする。食事に関しては、管理栄養士から持参した資料(食事量などの写真)を基に食事形態やカロリー等について説明する。衣類に関しては、生活相談員からエアコンが入るので夏でも半袖を着ておられる利用者様はほとんどいらっしゃるが、本人様は寒がりの方のため、この時期でも長袖を着用していることなどを説明する。衣類の管理については長男妻様の意向をユニット職員に周知するようにした。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【6】

発生日	令和6年6月12日(水)
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(個人情報の取り扱いについて) 外出した際、近所の方が施設から帰宅されることを知っており訪ねて来られた。入居者長女様が近所の方に帰宅することを何故知っていたのか聞いたところ、職員から聞いたと言われた。その職員とは仲が良いのでいいが、他の利用者でそういうことがあればどうかと思う。
処理結果	勤務中で知り得た個人情報は口外しないように施設長が注意をする。係長以上会議で個人情報の取り扱いについて改めて確認し、ユニット会議の議題にあげ職員全員に周知を図る。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【7】

発生日	令和6年7月10日(水)
申立人	入居者妻様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(電話対応について)

	入居者様がコロナウイルス感染症に罹患され、隔離が困難な時に居室に施錠して良いかと職員が電話で承諾を得た。その後、入居者妻様は承諾をしたものの様子を詳しく聞きたいと思われ再度電話をされ、ユニットに電話を繋いでもらおうとした際、夜警職員に誰も話を通じる人はいませんよ(技能実習生が勤務していた)と言われた。看護師から電話をさせますと言われ待っていたがかかってもなかった。
処理結果	入居者妻様には、改めて居室に施錠を行った経過、その時の様子など説明を行う。夜警職員に状況を聞き、電話対応では具体的にいつ電話をかけ直すか、家族様が不安を与える発言はしない等を伝えました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【8】

発生日	令和6年7月16日(火)
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 入居者様の補聴器の電池をプラス・マイナス入れ間違い破損したため、謝罪した際、入居者長女様から手書きの説明書を渡しているのにユニット職員に伝わってなかったんですね、と言われる。
処理結果	ユニット職員と取り扱いの確認を行い、補聴器店にも対応策を聞きボタン電池のプラスとマイナスをマジックで書き補聴器の本体にもプラスの表示をテプラで貼り見やすくする。(入居者長女様了承済み)
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【9】

発生日	令和6年7月17日(水)
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 肺炎・栄養失調で入院中の入居者様の長女様より、ユニット職員から食事がほとんど入らないと連絡をもらっていた。入居者本人様は塩気がほとんどない、病院食のようだと言われていた。別料金にはなるが、本人様が食べたいものを購入することもできるとお伝えすると、今後はそうしてほしいと希望される。低栄養になる前に何か(食べたいものが購入できる等の情報提供など)してほしいと、と言われる。
処理結果	入所前の病院から情報を確認すると、入院中から低栄養であった。退院後は、本人様の食べたいもの聞きながら提供をしていくように入居者長女様に説明をする。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【10】

発生日	令和6年8月1日(木)
申立人	入居者本人様

苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 ユニット職員より、入居者様より職員の対応について訴えがあったと報告を受け、生活相談員が本人様に内容を聞く。なかなか話をされようとしなかったが、自分は耳が聞こえるのに朝大きな声で部屋に入ってくる。車椅子を押してほしいとお願いすると自分でするようにと言われたとのことであった。
処理結果	本人様には、話をしてくださったことのお礼を伝え、不安な時にお手伝いすることが職員の仕事であることを伝えた上で、ご自分で出来ることは維持できるようにお願いすることがあることを伝える。自立支援を目指しているが、声掛けの仕方の見直しをユニット職員と一緒に検討し改善を図った。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【11】

発生日	令和6年8月13日（火）
申立人	入居者長男様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(申し送りについて) 居室での面会時に、7月に空気清浄機のカートリッジを渡して使ってもらおうようお願いしていたのに、袋に入れたまま居室に置いてあった。残念です、と言われる。
処理結果	ユニット職員に状況を確認する。使用されていなかったため、本人様が居室で過ごされる時は空気清浄器を使用するように周知徹底しました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【12】

発生日	令和6年9月10日（火）
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input checked="" type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 父が面会に行った際、面会時間30分が過ぎてしまったのだがもう少し話そうと思っていたら、職員に時間ですと言われた。その時の対応が冷たかったと言っていた、と言われる。
処理結果	感染症対策として面会時間を制限させていただいているが、時間の伝え方をユニット職員と検討し改善策を共有した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【13】

発生日	令和6年10月10日（木）
申立人	入居者身元様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input checked="" type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他

	身元様より、「面会から 30 分経過したときに職員から帰れと言われたが、いい方が良くない、別にそのことを当該職員に言わなくていいが。」と言われる。話を伺うと、昔のビデオと一緒に見ていたところ時間を伝えられたとのこと。はじめは少し声を荒げて言われていたが、話をしていく間に落ち着かれる。
処理結果	職員の対応により、不快に思われたことをお詫びし理解いただいた。対応した職員の言葉使いに問題がないか確認を行い、丁寧な対応をするように職員に周知した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【14】

発生日	令和 6 年 10 月 28 日（月）
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 管理栄養士への要望。「透析から帰って来たときの昼食のごはん(特に味ご飯)が冷たいことがある。これから寒くなるからきちんと温めてほしい。」と少し声を荒げて言われる。
処理結果	冷たいご飯を提供してしまったことをお詫びする。ユニット職員の食事の提供方法の確認を行い、厨房食器は熱伝導がよくないため中身が温まりにくい可能性があるため、ご飯はラップに包んでレンジ加熱し提供するようユニット職員に助言した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【15】

発生日	令和 6 年 11 月 19 日（火）
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(支援方法について) 透析から戻ってこられた際に、本人様より「病院の透析の入り口に段差があり職員二人で抱えてもらうことになっていたが、当日送迎した職員から歩いてと言われた。歩いたら、膝を痛めた。」と声を荒げて言われる。(病院が改修工事を行っているため、スロープのない所から入らなければいけなかった。)
処理結果	無理をさせてしまったことにお詫びする。段差が難しいときは、病院職員に声をかけることになっていたが、本会の対応した職員へ聞くと、「以前一度段を上がってもらったので今回もお願いした。」とのこと。今後は病院職員に協力してもらう等送迎につく職員に注意を促した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【16】

発生日	令和 6 年 11 月 28 日(木)
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input checked="" type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他

	理学療法士が訓練のため居室を訪問したとき、本人様は気分が落ち込んでいるような感じであったため話を聞くと、「怖い職員が何人かいる。」何をされたかは覚えていないが、言葉使いやコールを遠ざけられたと文字盤を使ってお話しされる。
処理結果	生活相談員が再度話を聞き、入居されたばかりで不安が大きかった時期に怖い思いをさせてしまったことにお詫びする。ケアの前に職員の名前を伝え、本人様の同意を得てケアを始めることを徹底し、信頼関係を育むよう指導を行った。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【17】

発生日	令和7年1月18日(土)
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(入居者同士のトラブル) 入浴時に、「他利用者(ショート利用者様)が、いちいちうるさい、携帯電話を貸してや等、しつこく言うてくる」と困った様子で職員に話をされる。
処理結果	ご迷惑をおかけしていることにお詫びする。携帯電話については、(他利用者の)家族様へ、このような事案を説明し対応して下さるように依頼する。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【18】

発生日	令和7年1月23日(木)
申立人	入居者次女様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 次女様より電話で、「定期便で送られてきた写真で、父が被っていた毛糸の帽子は女性物だった。」と問い合わせがあり、「男性用の帽子を送っている。今後は被らせないでほしい。」と言われる。
処理結果	届いた荷物の中に本人様用と奥様用の帽子が入っており、帽子には名前が添えてあったものの見落とししてしまったことにお詫びする。荷物等の確認は徹底を行うよう職員に指導を行った。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【19】

発生日	令和7年1月29日(水)
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 入居者様が一人で面会室に残っておられたことに職員が気づく。「わからなかったんかいな。ずっとテーブルを叩いとったんよ。手が痛い。ずっと一人で死ぬかと思った。」と涙ぐまれ訴えられた。
処理結果	辛い思いをされたことに謝罪する。面会室での面会の際は、入居者

	様を先にユニットにお連れすること、面会が終了した際は、内線で事務所にお知らせしてもらうこと等手順を徹底した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【20】

発生日	令和7年1月29日（水）
申立人	入居者本人様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 生活相談員と話をされた中で、「先日食事の時に粥なのに、ご飯にお湯を注いだものが来た。また、透析の送迎の時に、雨が降っている時でも傘をささずに車椅子を押したから濡れた。」とやや強い口調で言われる。
処理結果	訴えに対しお詫びをする。配膳時、ユニット職員がお粥をご飯と間違えて盛り付け、本人様より指摘があった。すでに余っているお粥は破棄した後だった為、ユニット職員がご飯にお湯を入れ対応したとのこと。不適切な対応であり注意指導を行い職員間で周知した。車に傘が備えられておらず配慮が足りなかった。職員に周知した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【21】

発生日	令和7年1月29日（水）
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 軟膏の塗布の仕方について曖昧な部分があったため、身元様に確認の電話をした際、「ショートで対応したユニット職員に言いました。紙にも書いてあると思います。職員さんは周知しますと言われたのに、してないんですか。」と声を荒げ言われる。
処理結果	対応した職員へ身元様が、「ステロイドを塗ってほしくない」と伝えられたときに「蕁麻疹以外の部分に」ステロイドを塗ってほしくない。という情報がきちんと伝わっていなかった。情報の伝達、共有ができていなかったことに対してお詫びをする。身元様が対応した職員へ、「ステロイドを塗ってほしくない。」と伝えられたとき、「蕁麻疹以外の部分にステロイドを塗ってほしくない。」という詳細情報があったことを失念していた。記録の徹底を周知した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【22】

発生日	令和7年2月28日（金）
申立人	入居者長女様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 長女様より電話で、「薬局から薬を一包化した代金 240 円の請求が来た。施設からは無料と聞いていた。」とのこと。（薬が多く誤薬の危険があったので、2/10 に一包化し 2/11 に身元様に説明をしてい

	た。)
処理結果	薬の一包化について、7 日分毎の一包化加算で料金が発生することを認識しておらず、説明が不足していた。お詫びし、その際 2/10 に一包化した経緯も説明し了承いただいた。今回の代金は施設側で負担した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

以 上

＜老人短期入所事業特別養護老人ホーム桃源の家＞

1. 事業総括

ご利用者およびご家族との意思疎通を図り、意向に沿ったサービスを提供するとともに、ご利用者の人格を尊重し安全安心なサービス提供に努めました。

関係機関との情報共有を通じて定期利用者の拡大や新規利用者の開拓に努め、新規利用者 12 名を含む年間延べ 3,188 名の方に利用して頂きました。地域包括ケアシステム構築の推進のため、医療機関や居宅介護支援事業所、他のサービス事業所等との連携を密に行い、在宅サービスを支える事業所としての役割を果たすべく、個別のニーズに迅速、丁寧に対応するなど、地域課題に沿った事業展開を行ってきました。

利用者の希望に沿った利用調整や緊急の利用についてもしっかりと対応できる環境作りと、在宅生活の延長を念頭としたサービス提供に努めました。

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI (重要最終目標指標)	指標名	指標値	実績
	月平均利用日数	273 日 年 3,285 日 ÷ 12 か月	273 日 稼働率(90.0%)

目標稼働率を達成しました。

(2) 地域社会との関係性強化

居宅介護支援事業所、他サービス事業者と連携し迅速な対応に努めました。

個別ニーズに沿った緊急短期の受入れ等空床利用を行いました。

新規利用者 24 名を目標とし 23 名の実績でした。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	103.4%
	計画職員充足率	100%	135.5%
	人時生産性	2.70	2.40
	労働生産性	5,246	4,351

3. 計画事業の総括

令和 6 年度に実施した事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス計画

(1) 利用者（入居者）状況

利用率・稼働率 (単位:人、%)

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率
10 名	273 日	毎月平均 273 日	90.0%

(2) 実施サービス

介護保険関係サービス

〈基本ケア〉

実施項目	日常生活支援
成果・評価	<p>理学療法士を配置し、利用中の状態の確認、ご家族、関係機関との調整、連携を密に個別援助計画書に沿った支援を実施し在宅での生活レベルを維持向上が図られるよう支援しました。</p> <p>(食事) ご家族、サービス事業所との情報共有を密に行い、利用者の病状・嗜好や嚥下状態に応じた食事とご利用者に合った水分摂取量を提供しました。</p> <p>(排泄、入浴) 安全で快適な環境の下、プライバシーに配慮しながら入浴、排泄介助を実施しました。</p> <p>(運動) 個々の状態に応じた運動・体操をリハビリ職と連携し実施しました。</p> <p>(余暇活動) 趣味や特技を生かした作業、他利用者様との交流などを実施しました。</p>
KPI	状態維持率 100%
KPI 実績	—

実施項目	緊急支援
成果・評価	<p>認知症状や家庭の環境整備状況により、急な利用が必要になったケースも迅速に対応しご家族等の生活支援に努めました。公立邑智病院や介護支援専門員からの依頼があり空床利用でショート対応を行いました。</p>
KPI	—
KPI 実績	空床ショート受け入れ実績 16 件

(3) 人員体制の状況 (常勤換算)

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
施設長	(0.1)		(0.1)			
生活相談員	(0.1)		(0.1)			
看護職員		1(0.5)		2(1.4)		+1(0.9)
介護職員	1(1.0)	6(3.15)	1(1.0)	5(3.8)		-1(0.65)
機能訓練員	(0.1)		1(1.0)		+1(0.9)	
管理栄養士	(0.1)		(0.1)			
調理員		1(1.0)		1(1.0)		
計	1(1.4)	8(4.65)	2(2.3)	8(6.2)	+1(0.9)	(+1.55)

生産性向上の取り組み

(1) 稼働率向上

	計画	実績
定員数	10人	—
稼働率	90%	90.0%

(2) 新規加算取得

新規取得計画	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・医療連携強化加算 ・看護体制加算 	(新規加算) 医療連携強化加算 看護体制加算 機能訓練体制加算
(評価) 人員体制を整え加算取得に努めました。	

4. 苦情解決(要望含む)の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年5月18日(土)
申立人	ショート利用者本人様
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他(申し送りについて) 昨日はやれなかった。眠剤の服用方法や軟膏の塗布の仕方がわからず、大変だったと言われる。
処理結果	ユニット職員に状況確認をする。ショートの対応に不慣れな職員が業務にあたっており、前々日から対応方法の手順書を準備していたが手違いで確認を行っていなかった。申し送り表を確認することを徹底する。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【2】

発生日	令和6年6月13日(木)
申立人	ショート利用者本人様
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 朝食時、副菜の皿のふちに汁が乾燥し付着していた。「皿をきれいに洗っていない。こんなものは食べられない。」と言われ副菜を残された。 ※洗い残しはなく、皿のふちには保温器で保存していたため、汁が乾ききっていた。
処理結果	厨房職員で対応策を検討する。コーティングの取れた食器は使用しない。洗浄時に汚れが取れているかの確認をする等は必ず行うように職員に周知した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【3】

発生日	令和6年12月12日(木)
申立人	ショート利用者本人様
苦情内容・要望	<p> <input checked="" type="checkbox"/>サービスの質 <input type="checkbox"/>従事者の態度 <input type="checkbox"/>管理者等の対応 <input type="checkbox"/>説明・情報の不足 <input type="checkbox"/>具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/>契約・手続関係 <input type="checkbox"/>その他 </p> <p>生活相談員に「ここに来るとカバンの中身を見られて片づけたり、要らん物を処分されたりする。昨日は風呂に入っている間に数人の職員がしていた。無くなったりしていないと思うが、カバンを開けてみてほしい。整理してもらうのはいいが、自分がある時にしてほしい。」と怒鳴った口調で言われる。</p>
処理結果	許可なく私物を片付けてしまったことをお詫びする。処分する際は本人様と確認した上で行うよう職員に周知した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

以 上

令和6年度（2024年度） 香梅苑拠点事業報告

<養護老人ホーム香梅苑・特定施設入居者生活介護事業所>

1. 事業総括

その人らしく、元気で、笑顔あふれる生活が継続できるよう入居者様の立場に立ち、尊厳を守りながら、常に自立を目指した取り組みを行いました。また保護施設としての役割を果たすべく、施設の専門性を活かし地域福祉の増進に努めました。

こうした事業方針のもと、外出機会を増やすなど楽しみを増やし笑顔で生活できるための工夫に努めたサービス提供と共に、できる限り自立を促すための取り組みを行いました。また、面会についても制限を緩和し居室面会を可能とした対応を実施しております。施設内感染発生の懸念もありましたが発生事例はなく年度末を迎えることができました。

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	月平均在籍日数	1,490日(稼働率98%)	1,425日(稼働率94%)

持病の悪化や骨折などで長期入院となるケースが増えたことや、退所後の空床日数の増加により目標稼働率を大きく下回りました。10月以降、新規入所調整に日数を要したことも要因の一つです。

(2) 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	町内住民等受入数	四半期13人	年間23名
	施設外活動参加人数	四半期13人	年間16名

団体ボランティアによる施設環境整備や夏休み中の学生ボランティアの受け入れ等地域の方々との施設交流に努めました。また、近隣地域の方々との合同避難訓練や、近隣施設への避難を想定した訓練も行い有事の際の協力を確認いたしました。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	95.6%
	計画職員充足率	100%	104.3%
	人時生産性	2.61	2.87
	労働生産性	5,084	4,771

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

自立支援介護の基本となる水分摂取、運動、排泄に重点を置いたサービスの実施をより一層広めるため、定期の水分摂取や苑内ウォーキングの実施など全体で取り組める工夫を行いました。日常生活においては、計画どおり行事やクラブ活動の場を提供し、充実した生活を送っていただけるよう努めてまいりました。

安定的な稼働率の維持については長期入院となるケースが増えたことと、退所後の新規入所決定までの調整に日数を要し、空床日数が増えたことが計画稼働率達成に至らなかった大きな要因となりました。

(2) 人財育成への取組み

施設内研修については必須研修を計画的の実施いたしました。また個々に必要と思われる外部研修も受講できるよう勤務を調整し受講に努めました。受講必須の研修もあるため引き続き計画的な実施に努めてまいります。

(3) 地域との関係強化への取組み

地域の方々へ施設周囲の環境整備の依頼や、施設内に於いては学生ボランティアの依頼など、地域の方々との関係性強化を図ることに努めました。また地域の方々と同避難訓練を実施し避難時の協力体制を確認することができました。

(4) 生産性向上への取組み

多職種連携により人員体制をできる限り最小限にすることで、人件費を抑え生産性アップに繋げました。

(5) 施設整備への取組み

主な施設整備として汚物処理室の追加工事、非常用照明器具のLEDへの交換、受水槽ポンプの交換等計画通り実施しました。次年度は空調関係や居室ドアの修繕等計画的な実施を予定しております。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

(単位：人、%)

定員数	計画数	実績	差異
18,250	17,885 (98%)	17,110 (94%)	△775 (△4%)

(2) 利用者構成状況

(単位：人)

介護度別	計画数	実績	差異
自立	17	16	-1
要介護1	15	14	-1
要介護2	10	12	+2
要介護3	6	5	-1
要介護4	2	3	+1
計	50	50	0

*実績数は令和7年3月末時点

2. 実施サービス

〈基本ケア〉

実施項目	社会復帰を促す取組
成果・評価	毎月の行事及びクラブ活動を計画的に実施し、その中で軽作業や運動を行うことで身心の向上を図って頂くよう努め、本人希望もありましたが2名の方が在宅へ復帰されました。
KPI	余暇活動参加率 100%
KPI 実績	参加率 81% (年平均)

実施項目	水分摂取管理
成果・評価	1日の摂取量目標 1,500 mlとし、1日8回の摂取提供及び呼びかけを行い目標量の達成に努めました。暑い時期は目標値に近い摂取量がありましたが、寒い時期は摂取に対し消極的であることから水分摂取の重要性を周知して頂くよう努めましたが、目標値との乖離が生じました。
KPI	目標摂取量達成者割合 100% (月平均)
KPI 実績	月平均 1,360 ml (達成率 91%)

実施項目	運動能力管理
成果・評価	毎日のラジオ体操と苑内ウォーキングを実施した他に、運動クラブでのボール運動等のプログラムを行うなど、普段の生活に於いて軽運動の習慣作りに努めました。
KPI	—
KPI 実績	—

実施項目	排泄管理
成果・評価	水分摂取と軽運動の実施及び食事面での調整等で、出来る限り下剤に頼らず自然排便を促す取り組みを行いました。1日の下剤摂取量が減少した方はおられましたが、完全に下剤を服用しない方の割合は目標値達成には至りませんでした。
KPI	下剤服用者割合 30%未満
KPI 実績	53% (年間平均)

実施項目	食事(栄養)管理
成果・評価	低栄養状態にならないために日々の摂取状態を管理し、嗜好調査による嗜好の把握や提供する食事形態の検討を行い、毎食できるだけ残食をせず全量摂取して頂くよう努め、低栄養状態の方の割合が3月末時に10%以下となりました。
KPI	・月平均残食量 朝：0.5 kg 昼：0.8 kg 夕：0.7 kg 未満 ・BMI 値 18.5%未満者割合 15%以下
KPI 実績	・月平均残食量 朝：0.8 kg 昼：0.8 kg 夕：1.2 kg (3月末時) ・BMI 値 18.5%未満者割合 6.5% (3月末時)

実施項目	口腔衛生管理
成果・評価	口腔ケアに介助がいる方は職員介助にて実施し、義歯が合わない又は破損した場合は歯科受診を行い、受診時に義歯管理等の指導を仰ぎケアを行いました。
KPI	—
KPI 実績	—

実施項目	入浴支援
成果・評価	個々の状態に合わせた入浴支援を行い、全入居者が各週2回実施できるよう入浴日を設定し、何らかの理由で入浴すべき日に入浴ができなかった場合は、別日を調整するなど確実に週2回実施が出来るよう支援しました。体調不良で入浴できない場合は清拭を行いました。
KPI	実施率 100%
KPI 実績	100%

<委員会実施>

各専門委員会	委員会開催月
感染予防委員会	4. 5. 6. 7. 8. 10. 11. 1. 2. 3
身体拘束委員会	4. 5. 6. 8. 11. 12. 1. 2. 3
事故防止委員会	4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 2
虐待防止委員会	4. 5. 8. 9. 11. 2. 3
給食委員会	4. 8. 12. 3
苦情解決委員会	事例発生時

<安全対策実施>

実施内容	避難訓練（年2回）、業務継続計画訓練（年1回）
評価	消防署員立ち合いにて、火災避難（夜間想定）訓練を年2回行い、内1回は近隣地域の方にも参加頂き合同で実施しました。夜間は全入居者を避難させることは困難なため、火元に近い方を優先して避難する、または火元から遠ざけることなどの助言を受けました。また業務継続計画（BCP）に基づき施設外避難を想定した訓練も行い、よりスムーズに行える避難方法を検討いたしました。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画			実績			差異	
	正職	非正職		正職	非正職		正職	非正職
施設長	1			1				
生活相談員	1(1.5)			1(1.5)				
介護支援専門員	1(0.5)			1(0.5)				
看護師	3	1	(0.2)	3	1	(0.2)		
介護支援員	3	13	(9.4)	2	13	(10.9)	-1	(+1.5)
栄養士	1			1				
調理員	3	3	(1.4)	3	3	(1.2)		(-0.2)
事務員		1	(1.0)		1	(1.0)		
環境整備員		1	(0.6)		1	(0.8)		(+0.2)
計	13	19	(12.6)	12	19	(14.1)	-1	(+1.5)

年度途中で、パート介護支援員2名（内1名は夜勤専属）を採用することができ介護人員はほぼ計画通りの配置ができましたが、看護人員は正規職員1名が年度途中から産前産後休暇の取得により、桃源の家から契約職員1名の支援を求め体制を整えました。調理員は慢性的な人員不足が続いた上に、期中で傷病による長期休暇等も発生したことからシフトでのやり繰りができず、1日の人員配置を少なくせざるを得なかったため、一部外注により対応いたしました。

人財育成事業

（1）事業所内実施研修

○身体拘束防止研修
全職員対象 14名参加
○感染症対策研修
全職員対象 25名参加
○事故防止研修
全職員対象 23名参加
○虐待防止研修
全職員対象 15名参加
○救急法講習
全職員対象 12名参加

（2）事業所外実施研修（外部派遣研修）

○感染対策研修
参加者数2名
○養護老人ホーム部会研修
参加者数1名
○介護報酬改定研修
参加者数1名
○施設ケアマネジメント研修
参加者数1名
○苦情解決研修

参加者数 1 名
○中国地区老人福祉施設研修
参加者数 2 名
○高齢者虐待研修
参加者数 1 名

地域との関係強化への取組み

実施事項	ボランティアの受入及び交流事業の実施
成果・評価	・施設周囲の花壇の草取りを実施いただき、一部の方へは入居者との関り(話し相手等)をもっていただきました。 ・学生によるサマーボランティアを依頼しました。介護補助等を行っていただき、介護施設の雰囲気や業務について理解いただきました。
KPI	—
KPI 実績	—
実施事項	公益事業の推進
成果・評価	運動及び認知症予防教室等地域活動への参加について実績を作ることはできませんでした。
KPI	—
KPI 実績	—
実施事項	災害時に於ける協力支援体制の構築
成果・評価	避難訓練時に近隣地域の方々への参加を依頼し合同で実施いたしました。有事の際に協力いただきたいことを双方で確認し合うことができました。
KPI	年 1 回合同避難訓練の実施。
KPI 実績	年 1 回合同避難訓練を実施。

生産性向上への取組み

(1) 稼働率向上の取組み

日々の体調管理と悪化防止に努めましたが、計画稼働率を 4% 下回る結果となりました。入所調整については、行政との連携も重要となってくるため、状況を説明し協力を求めました。高い稼働率を保っていくため、円滑な入所調整に努めてまいります。

(2) 新規加算取得への取組み

新規取得計画	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔栄養スクリーニング加算 ・ 夜間看護体制加算 ・ ADL 維持等加算 ・ 個別機能訓練加算 I ・ 生活機能向上連携加算 I ・ 退院退所時連携加算 ・ 認知症専門ケア加算 I 	新たな取得はありません。
職員体制等により取得要件を満たすことができませんでした。また入居者状況から取得要件に該当しない等の理由から新たな取得に至りませんでした。	

(3) 業務改善の取組み

各部署内に於いて業務の洗い出しを行い、ムダな業務の排除と改善に取組み、また他部署に協力を依頼又は協力できる業務を出し合い体制強化に努めました。

業務支援機器(ICT)等の導入については、検討したものの実績には繋がっておりません。

施設整備事業

実施事項	受水槽ポンプの交換
実施内容	前年度に交換が必要との指摘を受けていたため実施しました。
実施事項	非常用照明器具の交換
実施内容	非常用照明 LED 化のため、計画的に実施しております。
実施事項	洗面台給湯器の交換
実施内容	老朽に伴い、令和 3 年度から計画的に実施し、今年度で全ての更新が終了いたしました。
実施事項	共同トイレの一部へ汚物処理室を設置
実施内容	施設内に汚物処理室を追加するため、共同トイレの一部を改修いたしました。
実施事項	廊下床一部の張替え工事
実施内容	必要個所の張り替え工事を行いました。
実施事項	間仕切りカーテンの設置
実施内容	2 人部屋へプライバシー保護の目的でカーテンレールを設置しました。
*以下計画外の施設整備	
実施事項	感染対策用カーテンの設置
実施内容	施設内廊下へ感染対策用のビニールカーテンを 7 箇所設置しました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	16,000	16,000
大規模修繕	—	—
その他	4,000	4,000
計	20,000	20,000
取崩	3,180	3,255

感染症・災害への対応への取組み

業務継続計画 (BCP) 内容に基づき災害避難訓練 (施設外想定) を実施し、感染症対策として机上訓練を行いました。

特記事項

特にありません。

4. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年4月8日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■その他（他入居者）</p> <p>隣室入居者のテレビの音量が大きい（夜間）ため注意してほしい。ほぼ毎晩なので何とかならないか。</p>
処理結果	イヤホンを使用してもらっていたが、接続部の不良により音が漏れていたことを謝罪し修理をする。ご本人へ夜間帯はイヤホンをして視聴して頂くよう再度お願いしました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【2】

発生日	令和6年4月15日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■その他（他入居者）</p> <p>夜間帯に物を盗られることがあり、怖くてやれない。どうにかならないか。</p>
処理結果	夜間、施錠を提案し、本人も納得され不安を解消される。（時々、物盗られ妄想の訴えあり）
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【3】

発生日	令和6年4月21日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■その他（他入居者）</p> <p>共有のテレビのリモコン管理について統一してほしい。（元々、紛失やトラブル防止のため職員管理となっていると思うが）</p>
処理結果	テレビの傍へリモコンを入れる箱を用意し、必ずそこへ入れていただくよう職員、入居者へ周知、実施することをお伝えしご理解いただきました。

苦情事例【4】

発生日	令和6年5月27日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>食事時間になっても起こしてもらえず、みんなが食べ終わった頃に起こされるから気兼ねになる。例え寝ていても食事時間になったら声を掛けてほしい。</p>
処理結果	職員は、食事時間になれば必ず声をかけていると思うが、寝ておられると気遣い、無理に起こさない職員もいることをお

	伝える。今後は寝ておられても、しっかり起きてもらい食事誘導をするよう職員に伝えることで了承を得ました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【5】

発生日	令和6年7月28日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■その他（環境面）</p> <p>居室前のアジサイが大きくなりすぎて見栄えが悪いから、剪定してもらえないか。出来れば害虫発生防止のために居室前のアジサイだけでも切ってほしい。</p>
処理結果	当日中に対応しご理解いただきました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【6】

発生日	令和6年8月11日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■その他（他入居者）</p> <p>隣室者が、洗面所を汚したままにしていたり、下拭きタオルを置いたままにしていることがあるから注意してほしい。</p>
処理結果	下拭きタオルを回収し、掃除の際はスポンジを使用して頂くよう変更する。汚れがひどい時などは遠慮なく職員へ伝えていただくようお願いし、隣室入居者の方へも共有の洗面所であるため使用後はきれいにして頂くよう再度お願いしました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【7】

発生日	令和6年9月19日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■従業員の態度</p> <p>下膳した食器を洗う時の音がうるさい。まだ食べているのに気分が悪い。もう少し音をたてずにできないものか。</p>
処理結果	音の原因は、食器をシンクに入れる時に発生しており、シンク内の水の量が少ない場合に起こることが原因として考えられたため、シンク内の水をしっかりと溜めることと、食器を入れる際はできるだけ静かに入れるよう職員へ周知し、当日から改善いたしました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【8】

発生日	令和6年11月4日
申立人	入居者ご家族（娘）様
苦情内容・要望	■サービスの質

	面会に行った際、居室近くの廊下周囲の尿臭がひどかった、どうにかならないものか。
処理結果	環境整備が不十分であったこととお詫びする。共同トイレの床汚染が原因と思われるため、今後は床掃除を細目を実施する。汚れ及び臭いが取れない場合は業者へ依頼するなどの対策を行う。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【9】

発生日	令和6年11月24日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>夜勤職員がポータブルトイレの片づけを忘れていた。忘れないようにしてほしい。</p>
処理結果	職員の対応についてお詫びし謝罪する。夜勤者2名がお互いに片づけたものと思込んでいたことが原因であったため、チェック体制について確認し、事案内容を職員間で共有した。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【10】

発生日	令和6年12月2日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>シーツ交換をしてくれるのはありがたいが、シーツの角をしっかりと入れてないが続いている。自分でやればいいのだが大変なので言わせてもらった。</p>
処理結果	職員に対し指導を行う。シーツ交換時の注意事項を職員間で共有し周知したことをお伝えしご理解頂いた。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【11】

発生日	令和6年12月25日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>(食事中) 流れているBGMを聞きながら静かに食べたいのに厨房内で食器乾燥機を回す音大きい。どうにかならないか。</p>
処理結果	食事時間が終了してから食器乾燥機を回すことを基本とした。ただ業務の都合上、食事時間終了までに運転させなければならない場合は、入居者へ了承を得てから行うよう指導したことをお伝えしご理解頂いた。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

苦情事例【12】

発生日	令和7年1月22日
申立人	入居者様
苦情内容・要望	■従業員の態度 食事中に、大きな声で私語をしている職員がいる。注意してほしい。
処理結果	この度指摘された職員へ、今後そのようなことがないように厳しく指導したことをお伝えしご理解いただいた。また全職員へも事案内容を周知いたしました。
第三者委員への関与	解決結果を報告済

以 上

令和6年度（2024年度） いわみ西保育所拠点事業報告

<いわみ西保育所>

1. 事業総括

<保育方針>

- ・一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き、望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- ・保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した援助を目指しました)
- ・子どもと子育てに優しい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、養護と教育を一体的に展開しながら保育を進めてまいりました。子どもたちが安心して過ごせる環境の中で、愛着形成を育み、自己肯定感を高められるよう常に肯定的な言葉がけと寄り添う気持ちで関わりを深めてきました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終的な目標とし、それぞれの年齢で押さえておくべきポイントを計画として掲げ、年間計画に沿って取り組みを進めました。

(2) 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域交流を行いながら、子どもたちの姿を見ていただき、地域の中で育てられている子どもたちの情報を共有することで、地域の方からの理解が得られるよう取り組みました。また取り組み内容を積極的に発信する事に努めました。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	95.7%
	計画職員充足率	100%	97.1%
	人時生産性	1.74	2.30
	労働生産性	3,391	3,807

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

保育所全体の人数減少に伴い、これまでの保育を見直しながら、空間をうまく活用して保育を進めるようにしました。

保育計画では、乳児期を安心して過ごすことで自己肯定感を高め、安心感の中で活

動の幅が広げられるよう保育内容や環境を考えながら進めてまいりました。また保育内容や意義を保護者に発信することで、活動に対する理解や協力を得ることが出来ました。保護者と職員が「子どもたちを大切に育てる」という共通の目標を持ちながら、保育を進めることが出来たことは、子どもたちの成長に大きく繋がったと思っております。

(2) 人財育成への取り組み

職員自身が研修への参加に積極的であり、保育について学ぼうとする姿、より質の高い保育をめざそうとする姿が見られました。定期的に職員とフィードバックミーティングを行いながら、助言、指導を行う中で、職場の状況や、抱えている課題をともに考えながら、職員一人ひとりの資質向上を目指しました。

(3) 地域との関係強化への取り組み

高齢者との交流では、地域の子どもたちと直接触れ合うことでより身近に感じていただきました。矢上高校生との交流の機会も多く持ち、保育に関心を持ってもらうこともできました。また、SNS等を活用して、保育所の様々な活動を発信いたしました。

(4) 生産性向上への取り組み

正職員一人当たりの業務量増加に対して、契約職員、パート職員のサポート体制が効果的に機能し、求められるサービスの提供を維持することが出来ました。

(5) 施設整備への取り組み

事業計画に掲げたものは予定通り行うことが出来ました。計画外での修繕を要したところが数か所あり、業務に支障が出ないよう対応いたしました。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率 (KPI)
80名	70名	67名	83.8%

(2) 利用者構成状況

クラス別	計画数	実績数	差異
0歳児	6名	6名	—
1歳児	8名	8名	—
2歳児	12名	12名	—
3歳児	12名	10名	-2名
4歳児	13名	12名	-1名
5歳児	19名	19名	—
計	70名	67名	-3名

2. 実施サービス

計画上の事業及び実施した内容・成果等

<養護>

生命の維持

- ・清潔で安全な環境を提供しました。基本的な感染症対策は継続しております。
- ・日々の生活では、一人ひとりの生活リズムを大切にしました。また、身の回りの事が自分でできるように、それぞれの年齢に合った支援を行い基本的な生活習慣の確立に向けて取り組みました。

情緒の安定

- ・乳児期の愛着形成が育まれるように関わってきました。自分は愛されていると感じることが出来るよう、一人ひとりとの関わりを大切にしてきました。安心して預けられる保育所を目指し、落ち着いて過ごせる環境を提供しました。
- ・幼児には常に肯定的な言葉がけを心掛け、自己肯定感が育まれるような関わりを持つようにしました。子どもたちとの信頼関係を築き、心身の調和や安定感を図った上でいろいろな経験を積ませ、自発性や探求心、挑戦する気持ちを育てるような支援を行いました。

<教育>

健康

- ・「元気な体作り計画表」に基づき、クラス別に目標を立て、年間を通して様々な運動や遊びを取り入れてきました。
- ・幼児期では、身体を動かすことを大切に日々の積み重ねで体幹を整えることを目指しました。また、様々な運動遊びを取り入れることで、身体だけではなく、頑張ろうとする気持ちや挑戦する気持ちが育まれるよう取り組みました。
- ・自然豊かなこの地で自然の中での遊びも取り入れてきました。また、地域内を歩くことで、地域の方に元気な子どもたちの姿を見ていただくことも出来ました。

食育活動

- ・給食を通して、食べることの楽しさや、いろいろな食材を食べられることができる感謝の気持ちを育てること、食に対する興味を高めるなど様々な食育活動を行ってきました。乳児では安心した雰囲気の中で食べるようにし、自分で食べようとする意欲なども育てるように関わってきました。こうした関りを基本として、好き嫌いなく何でも食べるようになること、ルールやマナーについても知らせていきました。
- ・畑やプランターを利用して野菜を育て、自分たちで食材を切り、料理することを経験しています。収穫の喜びや自分たちで作ったものを食べる喜びから、食に対しての興味関心を高め、食べることへの意欲にもつなげております。
- ・保育所での取り組みを保護者に伝えることで、保護者の食に対する意識も変わってきていると感じます。食の大切さを伝えることで、子どもの成長を共に支えていくことができると願っております。

人間関係

- ・人と人とのつながりを大切に考え、乳児期にはしっかりとした愛着の形成を目指し、幼児期は自己肯定感が育まれるような関わりを持つように心掛けました。担任との信頼関係が構築できた上で、子どもたちが安心して様々な活動に取り組めるようにしました。
- ・幼児期には友だちとの関係のなかで、協調性や思いやりが育つように、一人ひとり

の違いを認め、自分らしくいられることを大切にしました。一人ひとりが違うことを理解することで、他人と比べなくてもよいことや、違いがあることを非難することがなくなり、いじめへ繋がることもなくなると考えております。

- ・異年齢児の交流を通して、家庭では出来ない人との関わりを経験するようにしました。

環境

- ・安心安全に過ごせる環境の提供を行いました。守られているという安心感の中で、探索活動を広げ、周りの物事に興味関心が持てるようにしました。また、それぞれの年齢に応じた保育の環境を計画的に考え実施しました。

言語

- ・乳児期には言語の獲得をめざし、場面に応じた様々な言葉かけを行ってまいりました。また言葉のやり取りから、人との関わりを深めることにも繋げていきました。子どもたちからの語りかけはしっかりと受け止め、やり取りの楽しさ、言葉で伝えることの喜びが感じられるようにしました。
- ・幼児期には聞くことの大切さも知らせ、就学に向けて人の話を聞くことが出来る、自分の思いを伝えることが出来るよう取り組みました。
- ・言葉のやりとりから、言葉や文字に興味を持たせ、文字や数字の理解へも繋げていきました。また保護者にも読み聞かせや、子どもとの会話を広げることを協力してもらおうように言葉のやり取りの重要性を伝えるようにしました。

表現

- ・自由な表現と豊かな感性を育てるために、乳児期から保育者は表情豊かに関わることを心がけました。
- ・身体機能を使つての表現遊びが出来るように環境を整えリズム遊びなどを取り入れてまいりました。子どもたちが表現することを常に肯定的に捉え、自分らしい表現が出来ることを大切にしました。
- ・絵画・制作活動を通して自分らしく表現することを体験するように、様々な素材を準備し幅広い活動を取り入れました。自分なりの表現を認めてもらい、子どもたちも嬉しそうでした。
- ・おたのしみ会での発表は、それぞれの年齢の目指す目標に向かい、自分なりに頑張り、友だちと一緒にやり遂げた達成感や自信へ繋げることができました。

<災害時の備え>

- ・年間計画に沿って毎月一回の避難訓練を実施しました。訓練後に内容を検討し、改善点を話し合うことで、より現実的に取り組むことが出来ました。
- ・BCPについても再確認し役割の確認などを行いました。
- ・備蓄管理は備蓄食の賞味期限が切れた為、新しい備蓄食を購入しました。

<特別保育事業>

一時預かり事業

- ・妊娠中で在宅育児を行っている母親の希望で、週に2～3日の割合で預かりを行いました。産後は、週2日程度で継続し預かりを行い、助かっているとお声をいただきました。
- ・里帰り出産で上の子どもを預かり、妊婦とその家族を支援しました。

体調不良児保育

- ・園児の急な発熱があった時に保護者に連絡を入れておりますが、仕事の都合で直ぐ来られない場合もあり、クラスでの対応が難しいとき有効となります。

・担当看護師が感染予防対策に気を配り、玩具消毒、換気など衛生面において丁寧に対応しております。

障がい児保育

- ・支援を要する園児の母親が不安を感じているような時には、こちらから声をかけて面談を行い寄り添うようにしました。
- ・就学については、就学支援委員会において助言をいただき、保護者の気持ちに寄り添いながら就学支援を進めてきました。小学校との連携会議を設けて具体的な支援や家庭の様子なども伝え、園児が安心して就学できるようにしました。

保護者の子育て支援

- ・年に1回の個人面談のほか、悩み事や気になることがあれば随時面談を行い対応しました。また食事の悩みやアレルギーのこと等も栄養士が相談に乗り、アドバイス等を行いながら保護者の不安に寄り添うようにしました。

<その他の行事>

- ・行事等で子どもの成長した姿を見ていただき、保護者と共に成長を喜び合うことができました。また子どもたちにとっては、成長した姿を保護者から褒めてもらい、自信を持って次へのやる気へと繋がる良い経験となっております。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職
所長	1		1			
主任保育士	1		1			
保育士	7	5(3.8)	7	6(4.3)		+1(+0.5)
子育て支援員		2(2.0)		1(1.0)		-1(-1.0)
管理栄養士	1		1			
調理員		3(2.4)		3(2.4)		
看護師		3(1.4)		3(1.4)		
清掃員		1(1.0)		1(1.0)		
計	10	14(10.6)	10	14(10.1)	±0	±0 (-0.5)

人財育成事業

(1) 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

調理実習
調理担当職員対象、1名参加
救急法講習会
全職員対象、10名参加
防犯訓練
全職員対象、11名参加
園内研修（年10回実施）
全職員対象、随時参加
年齢別、調理、主任話し合い
全職員対象、それぞれに参加
いわみ西保育所公開保育

全職員対象、16名参加

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

邑智郡保育研究会総会 講演「子育て支援 もうひとつの声と援助の視点」
全職員対象、7名参加
邑智郡調理研修
調理職員対象、1名参加
邑智郡所長、主任研修「働きやすい環境づくり」
所長・主任保育士対象、1名参加
保育士等キャリアアップ研修「幼児教育」
保育士対象、1名参加
スキルアップ研修「幼小連携・国の動き・教育と保育のつながり」
保育士対象、2名参加
邑南町特別支援連携協議会研修「幼児期から小学校低学年の子どもの自閉的特徴」
全職員対象、10名参加
幼児期の運動遊び
保育士対象、1名参加
食育推進研修会
調理職員・保育士対象、3名参加
邑智郡保育研究会「足育」
全職員対象、3名参加
島根県主任研修「子どもってみごとな人間だ！～子ども主体の保育で育ちあう～」
主任保育士対象、1名参加
浜田ろう学校研修「見え方・聞こえ方」
保育職員対象、2名参加
教育委員会・家庭教育講座「ことば・思考力をどう育てるか」
全職員対象、5名
人権講演会「知りたい！包括的性教育」
全職員対象、1名参加
苦情解決研修
苦情解決担当者対象、1名参加
子ども健康サポートネットワーク研修「アレルギーについて」
全職員対象、4名参加
島根県施設長研修「乳幼児の性と性教育」
所長対象、1名参加
人権擁護研修
管理職対象、1名参加
健康サポートネットワーク研修「見逃してはいけない子どものサイン」
全職員対象、3名参加
保育者研修「児童発達支援について」
保育者対象、2名参加
保育講演会「0,1,2歳児の保育で大切なこと」
全職員対象、4名参加

(3) 事業所間研修

ハラスメント研修
管理職対象、1名参加
労務研修
管理職対象、1名参加
ハラスメント研修
全職員対象、4名参加

地域との関係強化への取組み

実施事項	地域交流・ボランティアの積極的受入れ
成果・評価	高齢者や小中高等学校との交流の機会を多く持ちました。矢上高校生とは、保育に興味のある学生の実習も受け入れました。
実施事項	保育内容、保育活動などの地域への発信
成果・評価	月一回は SNS による配信を行うようにしました。配信内容も行事等のお知らせだけでなく、保育内容や保育所活動の目的等の発信に努めました。

生産性向上への取組み

改善事項	ICT の効果的な活用、目的を共有し課題を見える化
成果・評価	導入している ICT の活用範囲を広げながら、事務の効率を高めることが出来ました。また職員間で、自分たちの目指すところを共有し、保育の質の向上、保育サービスを高めるよう取り組みました。

施設整備事業

実施事項	施設整備
実施内容	園庭大型遊具の修繕
実施事項	施設整備
実施内容	3歳児保育室エコシルフィ設置
実施事項	施設整備
実施内容	テラス用すのこ取り換え
実施事項	保育備品
実施内容	子どもの発達に必要な絵本や遊具の購入
実施事項	施設整備
実施内容	厨房用給湯器交換工事
実施事項	施設整備
実施内容	ネットワーク共有機器の交換

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	800	3,440
大規模修繕	100	430
その他	100	430
計	1,000	4,300
取崩	1,081	1,011

感染症・災害への対応への取り組み

- ・災害対応については「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に沿って、月一回の避難訓練と振り返りを行いました。実際の訓練を通して見直しを行い、職員間で動きの確認を行いました。感染症に関しては、BCPの見直しと共に、職員の役割や体制について話し合いを行いました。
- ・安全対策は安全計画に則り計画的に進めてまいりました。

4. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年9月4日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者対応 夕方の迎えの時に見送りに出た保育士が、子どもが靴を履いている間に室内に戻ってしまい、子どもがさよならの挨拶が言えず悲しい思いをした。挨拶終了後までは、待っていて欲しかった。
処理結果	対応した職員には、保護者の思いを伝え、職員全体でも送迎時の対応について、丁寧に行うよう周知いたしました。
第三者委員の関与	令和7年2月19日の苦情解決委員会で報告

以上

令和6年度（2024年度）東保育所拠点事業報告

<東保育所>

1. 事業総括

<保育方針>

- ・一人ひとりの子どもの育ちを支える保育に努めました。
(現在をもっともよく生き、望ましい力の基礎を培う保育を目指しました)
- ・保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した援助を目指しました)
- ・子どもと子育てにやさしい地域作りに努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づいて、発達に応じた関わりを行い、子どもたちが自分らしく安心して過ごせるよう保育を行ってまいりました。養護と教育を一体的に展開しながら、愛着形成を育み、自己肯定感を高められるような言葉かけや寄り添う気持ちで関りを深めてきました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終的な目標とし年間計画に沿って進めてきました。

(2) 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を深め、保育所でなければ体験できない貴重な場を提供してまいりました。積極的に交流を行い地域との連携を深め、理解が得られるよう関係性の強化に努めてまいります。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	92.6%
	計画職員充足率	100%	101.6%
	人時生産性	1.69	2.12
	労働生産性	3,278	3,823

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

保育所全体で子どもたちを支え、また保護者を支援していくために、常に情報を共有しながら関係作りに努めてまいりました。乳児期では一人ひとりの気持ちや体調に配慮し、安心して過ごせるような環境作りを心掛け、保護者には保育所に安心して預けることが出来るよう取り組みを行ってまいりました。計画においては発達に応じた保育

を行い、愛情ある関わりの中で自己肯定感が培われるよう支援してきました。また支援を要する子どもたちへの関りを大切にしながら、保護者の悩みに寄り添い、どのような配慮が必要であるかを関係機関と連携を密にして、安心感ある保育所生活を送ることが出来るよう努めてまいりました。

今年度も行事や参観日等で保護者の方に子ども達の育ちを直接見ていただくことが出来ました。SNS や ICT システムを有効に活用し、子どもたちへの直接的な関りを増やし、様々な活動の様子を保護者に情報発信することで活動に対する理解を得ることができました。

(2) 人財育成への取組み

今年度もより多くの研修に参加することが出来ました。人権を主軸に主体性や多様性が求められる中、多くの人権研修に参加することができました。それらを職員間で共有することで、個々の子どもに合わせた保育の内容や取り組みを考える良いきっかけとなりました。また職員一人ひとりとの関係性作りの必要性や、随時、面談を行いながら目標の伝え方や方法を提示することで、職員の仕事に対する意識向上が見られ、互いを認め合う協力体制ができていたと感じております。

(3) 地域との関係強化への取組み

地域との繋がりを深め年間を通して交流を実施することが出来ました。地域ボランティアの受け入れや、婦人会、祖父母との交流も実施することが出来ました。地域から喜びの声や評価をいただくことで、改めて地域との関係の重要性を感じております。

またインスタグラムを活用し地域への発信・情報提供に繋がりました。地域に育まれる保育所として、保育所でなければ出来ない貴重な経験をこれからも子どもたちに提供してまいります。

(4) 生産性向上への取組み

ICT システムの効果的な活用に取り組み、事務作業の効率化、時間の有効活用が出来ております。職員一人ひとりの情報伝達能力の向上もあり、効率よく進めることで直接的な保育時間の確保に努めてまいりました。東保育所は障害児保育事業があり、その中で生産性の向上を目指すためには、職場の働きやすい環境作りが重要であると考え、引き続き業務改善に取り組んでまいります。

(5) 施設整備への取組み

事業計画に掲げたものは予定通り行うことが出来ました。建物は 21 年経過しており、様々な箇所の劣化が生じている為、今後も引き続き安全点検を行い管理してまいります。

令和 6 年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率(KPI)
60 名	65 名	65 名	108%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績	差異
0歳児	7名	7名	—
1歳児	11名	11名	—
2歳児	7名	7名	—
3歳児	19名	19名	—
4歳児	11名	11名	—
5歳児	10名	10名	—
計	65名	65名	—

2. 実施サービス

計画上の事業及び実施した内容・成果等
<p><養護></p> <p>生命の維持</p> <ul style="list-style-type: none">・清潔で安全な環境を提供しました。安全計画に沿って点検等も重視し、安全性強化に努めました。感染予防対策において、冬季に下痢嘔吐等の感染症やインフルエンザ等が流行したため、感染拡大を抑える策を講じました。また保護者には病院受診を促し体調管理についての確認を行いました。・年齢に応じて、子ども一人ひとりの生活リズムを大切にしました。また身の回りのことを自分でできるよう適切な支援を行い、生活習慣の確立に努めました。 <p>情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none">・乳児期の愛着形成が育まれるように関わってきました。自分が愛されていると感じられ、安心して過ごしていけるよう一人ひとりとの関わりを大切にしてきました。また子どもの状態や発達過程を把握し、欲求を満たしながら応答的な触れ合いや言葉かけを行ってきました。・幼児には肯定的な言葉かけを心掛け、子ども達との信頼関係を育みながら、活動を促す環境構成を試みました。また、心身の安定を図り、自分に自信が持てるような経験を積ませ、自発性や探究意欲が高まるよう働きかけてまいりました。 <p><教育></p> <p>健康</p> <ul style="list-style-type: none">・年齢や発達に応じた運動遊びを計画して、健康な体作りを目指しました。「元気な体作り計画表」に基づき、基本的な運動機能や体力体幹作りの向上を図りました。年長児は講師による運動教室に参加し、体操やマットを使った運動を行い、様々な運動遊びを取り入れ、頑張る気持ちや挑戦する意欲を育てるようにしました。・乳児期は安全な環境の中で体全体を使って遊べるよう必要な活動や時間の提供を行い、運動機能を伸ばしていけるよう努めました。・自然に親しみ、豊かな自然の中での遊びを取り入れてきました。日貫での金毘羅さん登りは子どもたちにとって自然を五感で感じる貴重な経験となりました。日貫川での川遊びは雨天により実施できませんでした。 <p>食育活動</p> <ul style="list-style-type: none">・食に対する興味関心を高め、楽しい雰囲気の中で何でも食べられることを進めてきました。しっかりと体を動かすことで食欲が増し、食べる意欲を育ててきまし

た。乳児は安心する雰囲気の中で、自分で食べる意欲を大切にしてきました。健康な体や心を育てるためには食は最も大切なものの一つだと考えております。

- ・幼児期には食具を使って食べること、姿勢良く食べられること等のルールやマナーについて知らせてきました。年長児においては食事時間を意識して食べることを心掛け、就学前にはこれらのことが定着してきております。また調理師との連携により、それぞれの年齢においてクッキングを随時実施しました。調理と保育が関わり合い、食に関する興味や意欲を高めることが出来ました。そしてその取り組みを保護者に発信し、食の大切さを伝えることで意識も変わってきました。食に対しての興味関心を高め、より良い食育活動が提供できればと思っております。

人間関係

- ・人との繋がりを大切にし、安心して過ごしながら愛着を深めていけるような関わりを心掛けました。
- ・乳児期は保護者と離れた不安から泣くことが多くなる子もいますが、ゆっくりと丁寧に関わり一人ひとりを受け止めることによって、安心して過ごすことが出来るようになりました。
- ・幼児期には友だちとの関係の中で協調性や思いやりの気持ちが育つように、一人ひとりを認め自分らしく居られることを大切にしてきました。また、年長児は自分で考え、判断できるような声掛けや配慮を行いました。安心して生活できる環境作りを工夫し、子ども一人ひとりが人との触れ合いを大切に、自己発揮できるよう努めました。
- ・異年齢児の交流を通して、より良い人との関わりを経験出来るようにしました。何気ない日々の生活の中に年上の子が年下の子のお世話をする機会を作ることで必要とされている喜びを感じ、思いやりの心を育てることができました。

環境

- ・安全に過ごすことが出来るような環境の提供を行いました。乳児は伸び伸びと遊ぶことができるよう、考えられる危険箇所を日々点検し修繕を行いました。守られている環境の中で探索活動を行い、発見や共感に繋げていき年齢に応じた保育の環境を提供しました。
- ・社会の出来事や自然事象への興味関心が高まるような言葉かけを行い、活動を取り入れるよう努めてきました。安心安全な環境について気になったことは、その都度話し合いを行い、環境改善に取り組みました。

言語

- ・乳児期には言葉かけを通して言語の獲得を目指しました。また言葉のやりとりから、人との関わりを深めることにも繋げていきました。語りかけを受け止め、言葉で伝えることの喜びが感じられるようにしました。
- ・絵本や紙芝居を通して言葉のやり取りの楽しさを伝え、人との関わりを増やし人間関係の形成に努めました。
- ・幼児期には伝えるだけでなく、相手の思いを聴くことの大切さも伝えていき、待つことができるよう支援していきました。お互いに思いやりながら言葉のやり取りを多く行うことで相手への理解に繋がりました。
- ・言語のやりとりから、言葉や文字に関心を持つようにし、文字や数字の理解へも繋げていきました。

表現

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感性を育てるために保育者は表情豊かに関わることを心掛け、共感しながら思いを共有していくことに努めました。 ・リトミックや音を使っての遊びから、体を使って自由に表現する楽しさを伝えていきました。子どもたちが表現することを肯定的に捉え、自分らしく伸び伸びとした表現が出来ることを大切にしてきました。 ・講師によるアートデーは取り止めとなりましたが、保育者が工夫を凝らし絵画や造形、制作活動を通して自分らしく表現することを体験しました。子ども達が自由に伸び伸びと表現するために様々な活動を取り入れてきました。自分を認めてもらう大切な時間となりました。
<p><災害時の備え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練計画に沿って、毎月一回実施いたしました。訓練後は内容や改善点を話し合い、次への訓練に生かしました。 ・BCPの再確認、防災マニュアルのシミュレーション等を行い、職員間で役割分を確認すると共に改善点を話し合いました。 ・備蓄管理においては備蓄食の確認を行いました。
<p><特別保育事業></p> <p>障がい児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を行い、保護者と丁寧に関わり、様々な思いや悩みを受け止め支援してきました。相談しやすい環境を提供することで、関係機関に繋げていくパイプ役となるよう努めました。保育所内でも情報を共有し、接し方や対応の仕方など常に話し合ってきました。 <p>保護者の子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに寄り添い、必要に応じて随時面談を行い不安が和らげるよう心掛けました。 ・保護者全員と懇談を行い、共通理解を持って子どもたちの成長を見守ることができました。
<p><その他の行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画に沿って行いました。子ども達の成長を見てもらう場として、夕涼み会、参観日、運動会、お楽しみ会など保護者参加の行事を実施しました。子ども達の成長を見ていただき共に喜びを共有することができました。自分たちの頑張りを見てもらうことで自信へと繋がる良い経験となりました。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1 (0.9)		1 (0.9)			
主任保育士	1		1			
保育士	5	11 (7.3)	5	12 (7.9)		+1 (+0.6)
子育て支援員		2 (2.0)		2 (2.0)		
保育補助						
調理員		4 (2.4)		4 (2.4)		
環境整備員		2 (0.4)		2 (0.4)		
計	7 (6.9)	19 (12.1)	7 (6.9)	20 (12.7)	±0	+1 (+0.6)

要支援の0歳児入所と調理師の途中退職により、12月から契約職員を雇用し、調理と保育に従事してもらうことで人員体制を確保いたしました。

人財育成事業

(1) 事業所内研修(石見さくら会石見保育研究会)

調理担当者研修
調理師、調理員対象、2名参加
人権擁護研修
全職員対象、全員参加
救急法講習会「心肺蘇生法の実習、AEDの使用方法」
全職員対象、5名参加
防犯訓練
全職員対象、8名参加
年齢別、主任、調理師話し合い(隔月)
担当職員対象、適宜
園内研修
全職員対象、随時参加可能な職員
公開保育
全職員対象、全員

(2) 事業所外研修(外部派遣研修)

邑智郡保育研究会

邑智郡保育研究会総会、記念講演「子育て支援、もう一つの声と援助の視点」
所長、1名参加
実技研修「足育について」
全職員対象、10名参加
郡調理担当者研修
調理員対象、1名参加
郡所長・主任研修会「働きやすい職場環境づくり」
所長主任対象、2名参加

島根県保育協議会・島根県社会福祉協議会(人材センター)

島根県保育協議会総会、記念講演「リーダーがどのようにして関係性を育むのか」
所長、1名参加
中堅研修(幼児教育施設)「子育て支援について」
全職員対象、1名参加
施設長研修会「乳幼児の性と性教育」
所長、1名参加
島根県保育研究大会
全職員対象、豪雨のため中止となりました。
保育士等キャリアアップ研修「幼児教育」
保育士対象、1名参加
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「中堅職員コース」
保育士対象、1名参加
リスクマネジメント研修(一般職コース)「ハラスメント防止研修」

保育士対象、1名参加
人権権利擁護研修
保育士対象、1名参加
保育者研修会「児童発達支援について」
保育士対象、1名参加
みんなで学ぶ人権講習会「知りたい！包括的性教育」
所長、1名参加
水泳プール安全管理講習会
全職員対象、1名参加
保育所等における働き方改革推進セミナー 「子ども達への性被害防止の視点から学ぶ働きやすい職場づくりについて」
所長、1名参加
指導者講習会（幼児期の運動遊び）「運動遊びの大切さ」
保育士対象、1名参加

町内研修

呂南町子ども健康サポート推進委員会講演会「食物アレルギーの正しい理解」
全職員対象、3名参加
呂南町子ども健康サポート推進委員会講演会 「見逃してはいけない子どものサインについて」
全職員対象、2名参加
特別支援連携協議会研修会「自閉特性について」
全職員対象、3名参加
養護学校研修会（保育士研修会）「インクルーシブ保育の前提となる個への配慮」
全職員対象、1名参加
呂南町特別支援連携協議会相談ネットワーク総会研修会 「読み書きに困難のある子どもへの気づきと支援」
所長、1名参加
食育推進研修会「子どもの食べる機能の発達と、特別な配慮がいる子どもと保護者への支援の在り方」
全職員対象、2名参加
保育士等キャリアアップ研修「新人保育士向け、保育実践」
新人職員対象、1名参加
家庭教育後援会「言葉・思考の力をどう育てるか」
全職員対象、2名参加

(3) 事業所間研修

ハラスメント研修「アサーティブな職場を目指して」
所長、1名参加
ハラスメント研修（一般職対象）
全職員対象、1名参加
健康づくり出前講座「ストレス解消のコツ」
全職員対象、2名参加

地域との関係強化への取組み

実施事項	ボランティアの積極的な受入れ
成果・評価	・お茶会、おはなし会、わらべうたのボランティア受入れを行いました。良い交流が図られ貴重な経験となっております。 ・高齢者の方との交流も行いました。様々な知識や知恵をくださり、子どもとの活動に癒されたと評価いただきました。

生産性向上への取組み

改善事項	ICT化の効果的な活用（事務の効率化・情報発信力の強化・直接的な保育時間の増加）
成果・評価	・間接業務の時間短縮に取り組みました。登降の時間管理、個別連絡帳の記載、保護者への全体連絡、緊急連絡、身体測定の結果報告、SIDSによる午睡チェック、日誌、ヒヤリハット事故報告書などの機能を活用しました。職員の情報通信技術も習熟され、直接的な保育に繋がっております。

施設整備事業

実施事項	オーディオ(音響再生装置)の更新
実施内容	音響装置の老朽化により更新しました。
実施事項	固定遊具の修繕(腐食が進んでいる箇所を修繕)
実施内容	腐食が進んでいる箇所を修繕しました。
実施事項	アレルギー用テーブルの購入
実施内容	アレルギーの子どもの安全性を考えテーブルを購入しました。
実施事項	玩具、絵本の購入
実施内容	子どもの発達に必要な玩具(ブロック、人形等)を購入しました。また、絵本の入れ替えや発達に必要な絵本、紙芝居等を購入しました。

計画外の施設整備等

実施事項	樋の修繕
実施内容	樋に取り付けてあるネットが雪による歪みで外れていたため危険のないよう整備しました。
実施事項	食食用テーブルの修繕
実施内容	長年使用していたテーブルが劣化し危険を伴うため修繕をしました。
実施事項	換気扇モーターの修理
実施内容	24時間換気の換気扇モーターが故障し、使用できなくなったため新しいものと交換しました。
実施事項	調理食洗機の更新
実施内容	調理食洗機の故障により使用できなくなってしまったため早急に対応し更新しました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	2,602	2,602
大規模修繕	325	325
その他	325	325
計	3,252	3,252
取崩	1,227	776

感染症・災害への対応への取組み

- ・大規模災害 BCP の役割分担について職員間で話し合い、防災マニュアルを基に災害が起きた時のシミュレーションを行いました。
- ・年間計画に沿って火災や地震の避難訓練を定期的に行いました。
- ・感染予防、安全対策による安全計画の確認、見直しを行いました。

4. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年12月23日
申立人	保護者の方
苦情内容・要望	<input type="checkbox"/> サービスの質 <input type="checkbox"/> 従事者の態度 <input type="checkbox"/> 管理者等の対応 <input type="checkbox"/> 説明・情報の不足 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 <input type="checkbox"/> 契約・手続関係 <input type="checkbox"/> その他 保育でクッキングをした際、暑い鍋に本児の腕が当たってしまい軽い火傷をしてしまいました。その時職員は本児が火傷をしていたことに気づきませんでした。火傷をしたときに本児は職員に伝えようとしたのですが皆忙しそうにしていたため遠慮して言い出せずにいました。週末に家で火傷が発覚し母親が連絡帳にて訴えて来られました。
処理結果	火を扱う鍋の場所と包丁の場所にそれぞれ職員は居りましたが、担任は写真を撮っており見守っていた職員も気づきませんでした。クッキングで包丁や火を扱うときには、人員を増員し安全面に配慮したり人数の多いクラスであるため、2グループに分かれて行うなど改善をし、今後このようなことが無いよう、今一度、職員間で確認、周知しますと保護者に謝罪し承知していただきました。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

以 上

令和6年度（2024年度）日貫保育所拠点事業報告

<日貫保育所>

1. 事業総括

<保育方針>

- ・一人ひとりの子どもの育ちを支える保育に努めました。
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培う保育を目指しました)
- ・保護者の子育てを支えるよう努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した援助を目指しました)
- ・子どもと子育てにやさしい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、子どもたちが将来、社会の中で自分らしく生きていくことが出来るよう保育を進めてまいりました。各領域に沿って、発達に応じた関わりの中で養護と教育を一体的に展開してきました。子ども達が安心して過ごせるよう愛着形成を育み、自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を心掛けました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終目標とし、非認知能力の育成に努めました。

(2) 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を深め、日貫保育所でなければ体験できない貴重な経験の場を子どもたちに提供していこうと考えながら保育を進めてまいりました。地域との行事を進め、文化や伝統を知り体験することの大切さを学ぶ機会を多く持ちました。

(3) 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標名	指標値	実績
	計画稼働率	100%	108.3%
	計画職員充足率	100%	122.7%
	人時生産性	1.96	2.17
	労働生産性	3,819	3,511

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取り組み

職員との連携性を持ち、地域との関係を密にしながら、保育所全体で一人ひとりの子ども達や保護者に常に寄り添う保育を進めてきました。乳児期の愛着形成の重要な

時期に、ゆったりと安心できる関わりを常に持ち、愛情の中で自己肯定感が培われるような言葉掛けや支援を行いました。常に職員間で話し合い、子どもの過ごしやすい生活の流れや環境設定を考えながら子どもたちの成長を支えるように努めました。自然に触れ合いながらの遊びを多く取り入れ、家庭ではできない経験を提供し、豊かな感情、好奇心、思考力、探求心が培われるような活動を行ってきました。保育の様子等を保護者や地域の方々に ICT システムやお便りで発信し情報を共有することで、子どもたちの成長や喜びを身近に感じていただけるよう努めました。支援の必要な子どもたちや保護者に関しては、関係機関と連携し合い、子どもたちが安心して過ごすことができるような関係性を築きました。

(2) 人材育成への取り組み

勤務体制を整え、必要な研修には参加できるよう配慮し、できるだけ多くの学びとなるように取り組んできました。研修で得た事を園内研修や資料配布にて、保育所全体の学びとなるように努めました。子どもたちに関することを保育士、調理師など職種に関係なく話し合い、改善を行うことで自分自身を振り返り、保育に活かすことができました。また、普段から職員とのコミュニケーションを図り、声を掛け合いながら働きやすい環境を整えるよう努めました。絶対ルールを基盤として職場全体の共通意識を持って業務に取り組んでまいりました。

(3) 地域との関係強化への取り組み

地域との繋がりを深める為、交流計画を立て実行してまいりました。奉仕作業や保育所行事での、保護者を含めての交流や地域行事への参加により、地域との繋がりがより一層深まったと感じております。保育所・小学校・地域合同の運動会も開催され保育所のことを知っていただける良い機会となっております。これからも地域との繋がりを保ち評価いただけるよう取り組んでまいります。

(4) 生産性向上への取り組み

ICT「はいチーズ」システムを有効に活用して、業務改善に努めてまいりました。事務作業の効率化を図り、間接的業務の負担を減らし、子ども達との直接的な保育時間を確保できるように努めました。

(5) 施設整備への取り組み

事業計画に掲げた施設整備事業はすべて実施することができました。計画外の整備となりましたが、年間を通し修繕を行い、子どもたちの日々の安全確保や充実した活動が遂行出来るよう考慮してまいりました。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働 (KPI)
20名	12名	13名	65%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績数	差異
0歳児	0名	1名	+1名
1歳児	2名	2名	—
2歳児	4名	4名	—
3歳児	1名	1名	—
4歳児	3名	3名	—
5歳児	2名	2名	—
計	12名	13名	+1名

2. 実施サービス

計画上の事業及び実施した内容・成果等
<p><養護></p> <p>生命の保持</p> <ul style="list-style-type: none">・各年齢に応じた環境を整え、発達年齢に適した支援を行いました。乳児期は一人ひとりとの関わりを大事にし、発達段階を踏まえた支援を実施しました。・一人ひとりの思いを受け止め、年齢に合った環境を整えました。 <p>情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none">・乳児期の愛着形成の重要な時期に、ゆったりと安心できる関わりを常に行っていました。自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を行いました。・子ども一人ひとりに職員が丁寧に関わることで、しっかりと気持ちを受け止め信頼関係を築くことができました。また、個別支援の必要な子どもに対して、丁寧に対応することが出来ました。子ども達が不安定にならないよう一人ひとりを見つめ、肯定的な受け止めを行いました。
<p><教育></p> <p>健康</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの年齢に適した活動や発達を考慮した運動遊びを行うことで、体力や体幹を身につけられるよう努めました。・幼児期は活動に意欲的に取り組む姿勢や挑戦する気持ちを持って頑張ろうとする取り組みを大切にしました。その中で年長児は専門講師による運動遊びを行い、体幹を養うための体操等も取り入れてまいりました。 <p>食育活動</p> <ul style="list-style-type: none">・食に対する興味や関心を高め、楽しい雰囲気の中で食事ができるよう努めました。また、しっかりと体を動かし食欲が増すことで、食べる意欲に繋げてまいりました。季節感が感じられるような食材の提供やその食材についての話を聞くことで食べるのが楽しくなるような食事の提供に努めました。・畑での野菜作りや収穫で感じた喜び、地域での季節毎の食育体験行事への参加により、食に興味を持たせ食べる意欲に繋げていきました。・乳児期は安心する雰囲気の中で食べる意欲が持てるよう努めてまいりました。成長に合った机や椅子を使用することで落ちついて食事出来るようになりました。・幼児期は5歳児を中心に、姿勢を意識して食事をする事が出来るようになり、成長を感じる事が出来ました。調理師との連携を図り、日々の声掛けの繰り返しや、体幹を鍛えることで正しい姿勢を知らせながら今後も引き続き支援を続け

てまいります。

人間関係

- ・特定の大人との深い関わりにより愛着形成を確立し、人との繋がりを大切にしていまいりました。一人ひとりを認め、前向きな言葉かけや肯定的な関わりを行うことで自己肯定感の確立に努めました。また、自分で考え行動出来るよう子ども主体の遊びを取り入れ、社会性の確立と自立心の育成に努めました。
- ・少人数により、多くの人との関わりには限りがありますが、異年齢での交流や地域の方々との触れ合いより、喜びや思いやりの心を育てることができました。

環境

- ・安心安全に過ごせる環境や、社会事象に興味関心を持ち好奇心を高める環境の提供に努めました。
- ・乳児は行動範囲が広がるため、危険な場面に注意しながら探索行動を見守り、発見に共感することで興味関心が高まるよう努めました。

言語

- ・乳児期は優しい言葉かけを意識し、言葉の獲得に繋がりました。
- ・幼児は遊びや活動の中で言葉を使った遊びを実施することで、言葉や文字、数への興味関心を引き出す工夫をしました。
- ・日々、応答的な関わりや言葉での伝え合いを大切に、担任が関わりを深め、無理強いのない声掛けを繰り返すことで、言葉での伝え合いがスムーズになりました。

表現

- ・乳児期は保育者の関わりが重要なため、保育者自身も表現豊かに関わることを心掛け、幼児期は自由に表現出来るよう常に肯定的な関わりを持つよう努めました。リトミック遊びを多く取り入れ身体的表現を自分たちで楽しみました。常に前向きに表現し、喜びを感じられるよう努めました。
- ・五感を刺激する活動を取り入れ、豊かな感性を育みながら表現する楽しさを感じることが出来ました。

<災害時の備え>

- ・避難訓練計画に沿って毎月実施しました。実際に避難指示を想定し、協力可能な保護者に電話連絡をし、訓練を共有いたしました。実施後にその訓練についての気づきや反省を職員で共有し次に繋げていきました。
- ・備蓄の管理を行いました。

<特別保育事業>

- ・子育て支援として、関係機関と協力体制を敷き支援を進めてまいりました。個人懇談も随時行い、保護者との信頼関係を築いてまいりました。

<その他の行事>

- ・地域行事や年間の恒例行事を計画に沿って行いました。運動会は小学校と地域と合同で行いました。様々な方に保育所の様子や園児の姿を見ていただきました。
- ・保護者参加の行事では、子どもたちの成長や保育所での生き生きとした表情を身近で見て頂くことができました。成長を共に喜び合うことができました。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1		1			
保育士	1	7(3.4)	1	7(4.95)		(+1.55)
保育補助						
調理員		2(1.2)		2(1.1)		(-0.1)
計	2	9(4.6)	2	9(6.05)		(+1.45)

人財育成事業

(1) 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

石見保育研究会総会
全職員対象、4名参加
3園合同調理実習
栄養士・調理師対象、1名参加
救急法講習会
全職員対象、1名参加
防犯訓練
全職員対象、6名参加
人権研修
全職員対象、10名参加
年齢別、調理師話し合い
全職員対象、適宜
園内研修
全職員対象、参加可能職員
さくら会保育研究会まとめの会
全職員対象、3名参加

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

邑智郡保育研究会総会
全職員対象、2名参加
邑智郡実技研修
全職員対象、不参加
邑智郡調理担当者研修
栄養士・調理師対象、1名参加
邑智郡主任・所長研修
係長・所長対象、1名参加
保育所連絡会
所長対象、1名参加
保育士研修会
全職員対象、1名参加
メンタルヘルス研修 管理職コース
係長・所長対象、1名参加

リスクマネジメント研修 管理職コース
係長・所長対象、1名参加
島根県保育協議会総会
所長対象、1名参加
島根県保育研究大会
全職員対象、不参加
保育所等における働き方改革推進セミナー
全職員対象、1名参加
施設長研修会
所長対象、1名参加
水泳プール安全管理講習会
全職員対象、1名参加
邑南町特別支援連携協議会研修会
全職員対象、3名参加
保小連携・接続に係る研修会
全職員対象、2名参加
家庭教育講演会
全職員対象、2名参加
みんなで学ぶ人権講演会
全職員対象、1名参加
邑南町子ども健康サポートネットワーク推進委員会講演会
全職員対象、1名参加
邑南町子ども健康サポートネットワーク推進委員会研修会
全職員対象、1名参加
同和研修
全職員対象、1名参加
母子保健検討会
所長対象、1名参加
(3) 事業所間研修
ハラスメント研修
全職員対象、2名参加
労務管理研修
所長対象、1名参加
メンタルヘルス研修
全職員対象、3名参加

地域との関係強化への取組み

実施事項	地域交流・ボランティアの受け入れ
成果・評価	・おはなし会やわらべうた等毎月受け入れを行いました。 ・鮎焼き会、野草茶作り、クリスマス会では、子ども達との交流を楽しんでいただき、良い関係を築けました。
実施事項	地域発信
成果・評価	・地域協議会で保育所の行事や子ども達の様子を伝え、運動会では親

	しみを持って関わっていただきました。
--	--------------------

生産性向上への取組み

改善事項	ICT の活用
成果・評価	ICT の活用によって、事務作業の効率を上げると共に、保護者への情報発信や職員間での情報共有に役立てました。

施設整備事業

実施事項	避難車(ベビーカート)の購入
実施内容	散歩時や災害時の避難に使用するため購入しました。
実施事項	登り棒の撤去工事
実施内容	安全点検により使用不可となった為撤去しました。
実施事項	乳児用滑り台(クラブハウスクライマー)の購入
実施内容	乳児用の園庭遊具が無かったため、安全に遊べる遊具を購入しました。
実施事項	食器洗い乾燥機の購入
実施内容	業務効率を上げる為購入しました。
実施事項	保育備品の購入
実施内容	保育用品の収納、お絵かきボード、三輪車、絵本、紙芝居を購入しました。
実施事項	施設整備
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスコンロ、ブラインド、公用車のエアコン、トイレ、ピアノ鍵盤の修繕を行いました。 ・遊戯室の蛍光灯交換と LED への交換工事を行いました。 ・調理用ワゴン、園庭用ベンチ、遮光ネット、ホットプレートを購入しました。 ・藤棚の選定を行いました。 ・野外遊具安全点検を行いました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設		
大規模修繕		
その他	870	2,373
計	870	2,373
取崩	680	0

感染症・災害への対応への取組み

- ・子ども及び職員の清潔保持に努め、アルコールや次亜塩素酸水を年間通して使用し感染症予防及び拡大防止を図りました。また幼児には給食配膳時のマスク着用の依頼をし、無理のないところで使用しながら生活環境を整えました。
- ・避難計画に基づき毎月避難訓練(火災、地震等)の実施を行いました。想定外の災害発生に対して職員間でマニュアルを確認し合い、非常持ち出し品や備蓄品などの確認を行いました。

4. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和7年2月17日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 子どもの送迎時、車の進入路が決まっていないので対向車とぶつかりそうになる為危険を感じたとのことでした。
処理結果	進入路を決めて一方通行にし、保護者の方にもスピードを出さず安全に走行してもらうよう伝えました。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

以 上

＜東保育所拠点事業地域子育て支援センター＞

1. 事業総括

- ・親子の絆を深めるため、子育て親子の交流の場として在宅親子が安心できる居場所となるよう努めました。
- ・子育ての不安や悩みに寄り添い、個別のケースに応じて関連機関と連携を図り援助に努めました。
- ・子育てサークルや子育て支援団体と連携を図り交流活動の支援に努めました。
- ・地域の子育て支援関連情報を提供し、様々な保護者の輪が広がる支援を目指しました。

2. 事業目標に対する評価

地域の子どもの健やかな育ちの実現、子育て家庭が抱える育児不安や孤独感を軽減し子育ての楽しさや成長の喜びを感じることができるよう支援いたしました。

3. 計画事業の総括

(1) サービス事業への取組み

今年度も常時支援センターを開所することが出来ました。在宅親子の交流を設け、いつでも気軽に利用することが出来るよう対応いたしました。心のよりどころとして安心感を持って子育て出来るよう支援に努めました。

(2) 人財育成への取組み

事業所間や園内研修は毎月計画的に行い、職員講師による乳幼児の発達や救急法、人権研修、ケース会議など知識の共有を図りました。子育て支援にも繋がる学びの場となりました。

(3) 地域との関係強化への取組み

子育て相談は、内容に応じて関係機関(保育所や保健課、医療福祉政策課)に繋げ連携を図りました。地域に出向き親子交流活動や子育てサークルの援助を行いました。

(4) 施設整備への取組み

玩具の更新を行う等衛生面や安全対策に努めました。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者状況

利用者	計画数	実績	差異
在宅親子	29組	17組	-12組

2. 実施サービス

<子育て親子の交流の促進>

実施事業の成果、評価
在宅親子の交流の場を提供する。 <ul style="list-style-type: none">・孤立防止を図るために子育て支援室『すくすく』を開所し、在宅の親子がゆったりと過ごせる環境を整えました。・保護者同士の交流を通して、子育て親子の相互支援、または保護者の自主的活動を支え孤独感の緩和を図るよう努めました。・支援センターが平常開所していることで気軽に来ていただき、心休まる時間を提供することが出来ました。母親が安心感を持って子育てに向き合うことが出来るよう、これからも配慮していきたいと思っております。
・各保育所に開放日を設けました（月1回9：30～11：30） 親子サロン（いわみ西保育所）、わくわくデー（東保育所）、ピヨピヨデー（日貫保育所） <ul style="list-style-type: none">・各保育所と開放内容を話し合い、行事にも参加できるよう連携をとって実施しました。・保育所給食の試食体験を実施し子育て相談に応じました。・開放日は同年齢の子どもの発達を知ることができ、入所前に保育所の様子や行事を知ってもらえる機会とあって、初めての方も参加され支援室へと繋がりました。・各保育所の親子サロン、わくわくデー、ピヨピヨデー、それぞれ年間12回の開放となりました。

<子育てに関する相談・援助>

実施事業の成果、評価
来所や電話による子育て等に関する相談・援助を行う。（8：30～17：00） <ul style="list-style-type: none">・子育て相談件数81件・子どもの発達や離乳食、卒乳や一時預かり、保育所の入所（申請の仕方、保育所での生活リズム）についての相談があり、特に育児や発達に関連した相談内容が多く、相談内容によっては、他の関係機関（保健課栄養士・調理師・保育所長）と情報を共有し、より支援が的確なものであるよう努めたことは保護者の安心感へと繋がりました。・健診は毎月担当保育士が町の健診に参加することが出来ました。町内全体の親子と触れ合いを持ちながら悩みを聞き、生活習慣や子どもとの関わり方等の助言や援助を行いました。健診では新規の方にも来所のお誘いができたことや、相談もあつたため、在宅親子との信頼関係へと繋げていくことが出来ました。・健診で新たな在宅親子と顔見知りになることで、支援センターへの来所や電話相談に繋がられるよう努めました。

<地域へ子育て関連情報の提供>

実施事業の成果、評価
<ul style="list-style-type: none">・機関誌『すくすく』『月の行事』を在宅親子に毎月発行しました（地域の民生委員、公民館などにも送付）。地域の公共の場や病院、保健センターなどにも掲示いただきました。・広報紙『さくらだより』に情報提供を行いました。・インスタグラムにて支援センターの案内や活動の情報提供を試みました。・子育てに関する講演会やイベントの案内を配布しました。・赤ちゃんが誕生された方、石見地区に転居された方に『子育て支援センター』の案内を送付し来所に繋げました。より多くの在宅親子に利用していただけるよう情

報発信を行いました。

- ・在宅親子の孤立感の緩和を図る為、地域へ支援センターについての情報発信を行うことで、在宅親子に対し周囲からの働きかけや情報提供を行っていただきました。
- ・保健課や医療福祉政策課の協力を得て情報を早期に収集し、漏れのないようご案内いたしました。

<子育て及び、子育て支援に関する講座の実施>

実施事業の成果、評価	
・	わらべうた遊び・絵本の紹介・ママの心こころころ（11回）を開催しました。
・	3B体操、リズム遊びを年12回実施しました。
・	産後ケア相談（ほかほかデー）は年6回実施しました。
・	出前講座はベビーマッサージと離乳食の指導相談を保健師や栄養士により実施しました。
・	イベントは希望者が多く、予約制となりますが参加者が偏らないよう配慮し、孤立防止となるよう働きかけました。
・	在宅親子同士の交流を通して相互支援となるよう働きかけました。
・	専門職との連携、保護者が子どもの発達状況を知り、養育力や知識の向上を図り、不安感の軽減に繋げるよう努めました。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
センター長(東保育所長が兼務)	1(0.1)		1(0.1)			
保育士		4(2.2)		4(2.2)		
計	1(0.1)	4(2.2)	1(0.1)	4(2.2)	±0	±0

人員配置に支障なく運営することが出来ました。

人財育成事業

(1) 事業所内研修

救急法講習会
全職員対象、1名参加
防犯訓練
全職員対象、不参加

(2) 事業所間研修

人権擁護権利研修
全職員対象、2名参加

(3) 事業所外研修

邑南町特別支援協議会研修「自閉症特性について」
全職員対象、不参加

地域との関係強化への取組み

実施事項	親子交流活動、子育てサークルこぐまクラブとの連携。
成果・評価	地域の子育て活動を援助することで支援センターの取組みを知ってもらい良い機会となっております。

施設整備事業

実施事項	玩具の更新
実施内容	玩具が傷んでいるため新しい物と入れ替えをしました。

計画外の施設整備事業

実施事項	日よけ用パラソルの購入
実施内容	プール遊びをするための日よけ用パラソル購入しました。
実施事項	支援センター看板設置（2箇所）
実施内容	支援センター看板の劣化のため。2箇所設置し支援センターの場所が分かりやすいよう対策をしました。

感染症・災害への対応への取組み

東保育所と同じです。

以 上